



彼氏
と
彼女

彼女
と
彼氏

予備役製作所

登場人物

彼氏と彼女



泉 雫

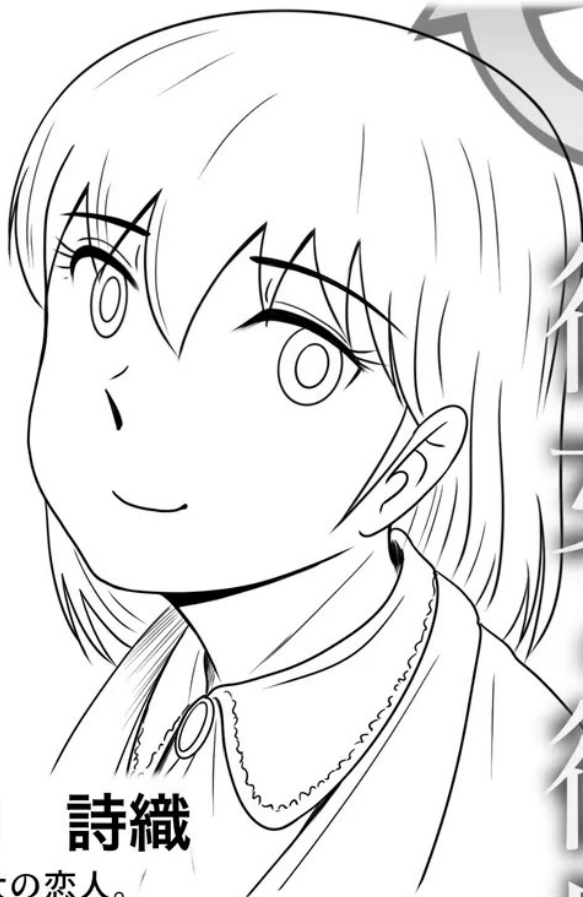
輝一の恋人。
詩織や亮太の大学時代の後輩。
巨乳でエッチな事が大好き。

彼女と彼氏



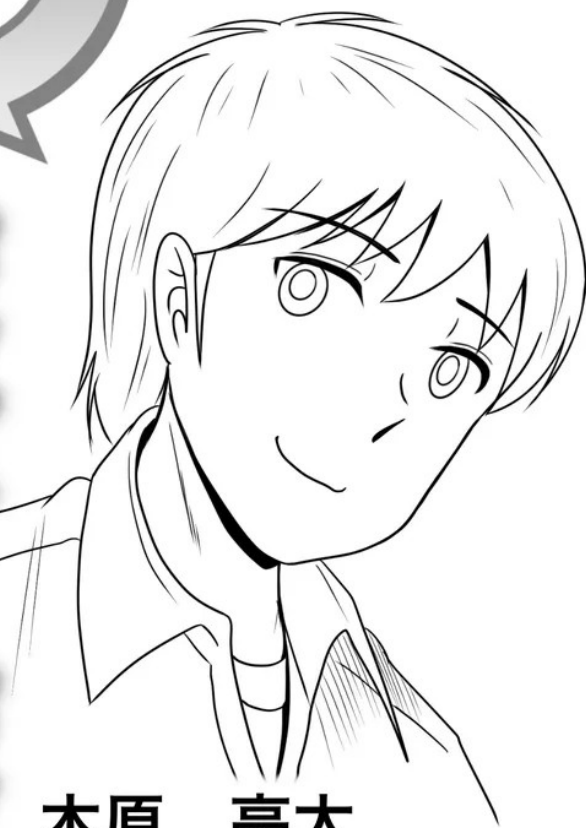
宝田 輝一

雫の恋人。
詩織、亮太とは大学時代同じサークルだった。



神 詩織

亮太の恋人。
最近亮太との省略気味のセックスに
不満を持っている。
真面目を装っているが
エロい事には大変興味がある。



木原 亮太

詩織の恋人。
詩織とのセックスには若干飽き気味。
巨乳ずき。



ちよっと、雫ちゃん
意味わかって
言ってるの？



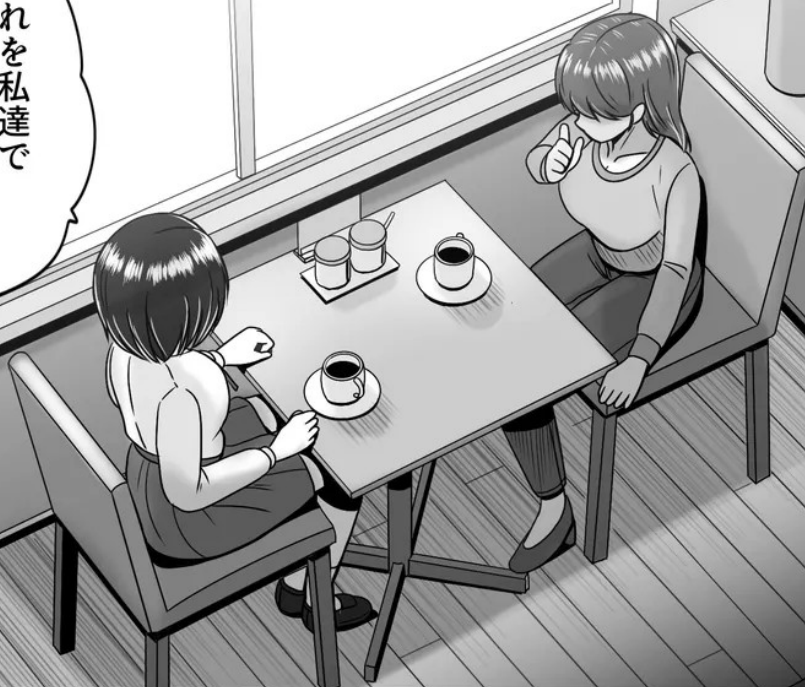
もちろん
です！

二組の
カップルが



互いのパートナーを
入れ替えて
エッチすることです！

それを私達で
やろうって訳です！



私とキーちゃん



それと
詩織先輩と亮太先輩
の四人です。

きっと
楽しいですよ。



私は、榊詩織。二十四歳のOLです。

私には大学時代から付き合っている彼氏がいます。



彼は木原亮太。

同じ年で大学では同じサークルに属していました。

とんでもない提案をしてきた彼女は
泉雫。

同じサークルの一つ下の後輩です。

彼氏はやはり同じサークル出身の

キーちゃんこと宝田輝一君。

彼は私達と同期です。

私達四人は

大学を卒業した後も何かにつけて
集まって飲み会したり、
遊びに行ったりしています。

結構仲良しのグループなのですが

だからと言って

スワッピングだなんて…

実は私
キーちゃんが初めての
男の人なんです。

だから、
キーちゃん以外の
男の人を知らなくて、

詩織先輩は
興味ありませんか？

他の男の人の
おちんちん。

そう言えば
私も
亮太しか知らない

他の人の
おちんちん！
どんなかしら！

それに最近
エッチも適当
なんですよ！

前みたいに
丁寧じゃない
って言うか…

あー！

このまま
飽きられちゃったら
どうしょー！

詩織先輩とは
どうです？

亮太先輩に
満足させて
もらってますか？

まー
うちはそれなりに

世間の
カップル並みには…

詩織、
じゃあ入れるよ。

まあ、確かに
最近適当っていうか…

えっ？
もう？

なんか
早くない？

大丈夫だよ、
もう十分濡れてるし、

じゃあ
いくね！

んん

ズ
ズ
ズ

あ

別に不満ってわけじゃ
ないんだけど、

なんだか
省略形だわね…

詩織先輩！

知

私
不安なんです！

知

将来結婚しても
キーちゃんが
知らない女の人と
不倫しちゃうかも。

そんなの
嫌なんです！

まあまあ…

そんな先の事
心配しても…

私、愛情の
確信が欲しいんです。
キーちゃんが詩織先輩と
エッチしても

ちゃんと
私のところに
戻って来るって。

だから
スワッピング
なんです！

雫ちゃんの
言う事も
分かるけど、

それでスワッピングだなんて
いくらなんでも短絡的過ぎない？

私、
詩織先輩なら

キーちゃんとエッチしても
本気じゃなきゃ
平気なんですけど…



まあ、
スワッピングは
一旦置いて

一度
四人で会って
話をしましょう。

時間と場所は
雫ちゃんが
決めていいわ。

だからって！

HOTEL
Cuckoo's Nest







それに
俺は雫を
信じているし

たかが今日
セックスしたくらいで
亮太に負けない
自信はあるさ。

亮太！
あなたは
どうなの？

私が輝一君と
寝ても
平気なわけ！

正直
複雑だけど

愛情の確認には
なるんじゃないかと。

何かっこ
つけてんの！

あなた
雫ちゃんと
エッチしたいだけでしょ！

決して
そう言う
訳では…

ねえ
詩織先輩…

先輩は
自信無いんですね。

亮太先輩が
私に取られるのが
怖いんですよ？

そんな事
ないわ！

キーちゃんと一緒に
私もキーちゃんを
信じてます。

だから今日の事は
亮太先輩の言う通り
愛情の確認なんです。

一体何なの！
みんな！

それとも
先輩がキーちゃんに
夢中になるとか？

あげませんよ。

そんな事
無いって！

じゃあ
そういう事で。

ちょっと！
輝一君！
何すんの！

ほら、
見てみな。

始めちゃってる
から。

！
。

栗ちゃん
おっぱい
柔らかいね〜

いっぱい
触ってください。

ほえー！



亮太のヤツ
早速
何やってんの



やりましょう
スワッピング!

あーもう
わかった
わかった!

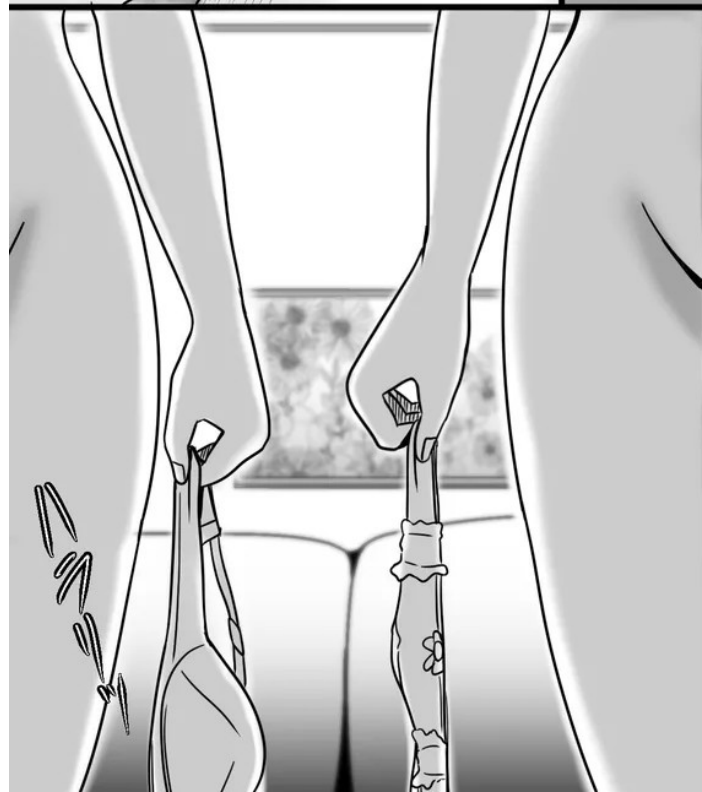


へへ!
オッケー!



それと
服は自分で
脱ぐから!

ただし
避妊はちゃんと
して!







私は
綺麗にしていますよ。

ちゃんと
サロンで
脱毛しましたから。

剃ったんじゃない
無いだ!!

イケてる女子は
みんなそうですよ。

そんなの
常識です。

う、
うるさいわね!

自然が
良いのよ!

まあ
詩織らしいかな。

ほれ
近くで見せてみな。





それに
エロい乳首だ。

あ

もう、
ピンこ立ちじゃん。

エロいですよ。

私のなんか
こんな控えめで
色も綺麗でしょ？

別に
エロく無いでしょ！

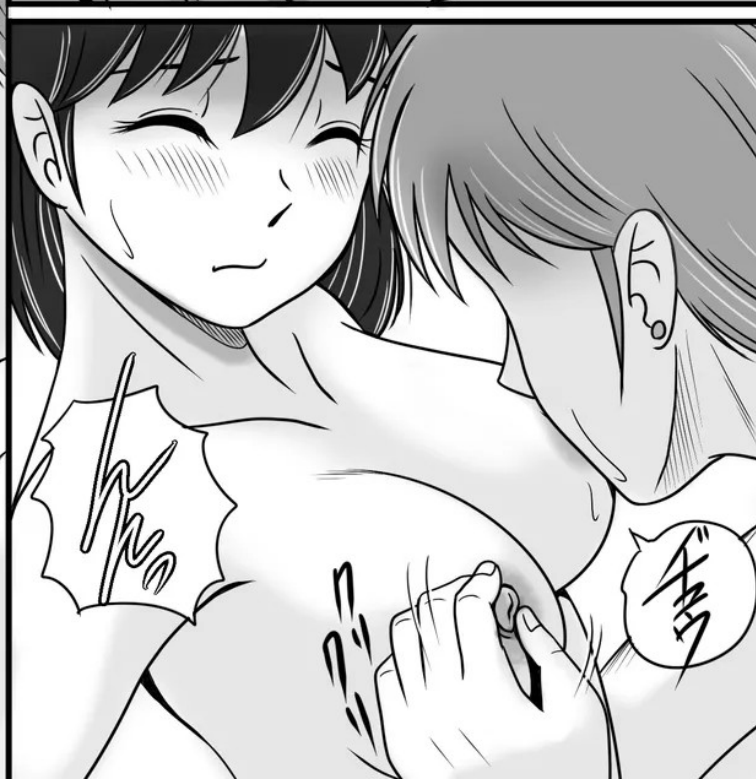
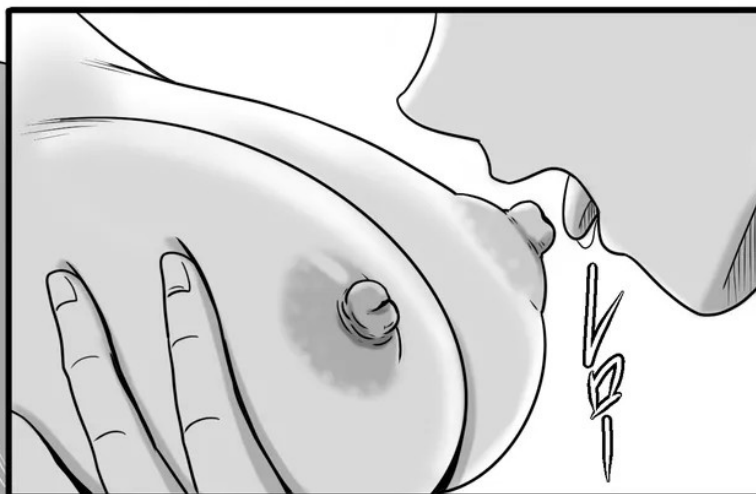
ちょっと！

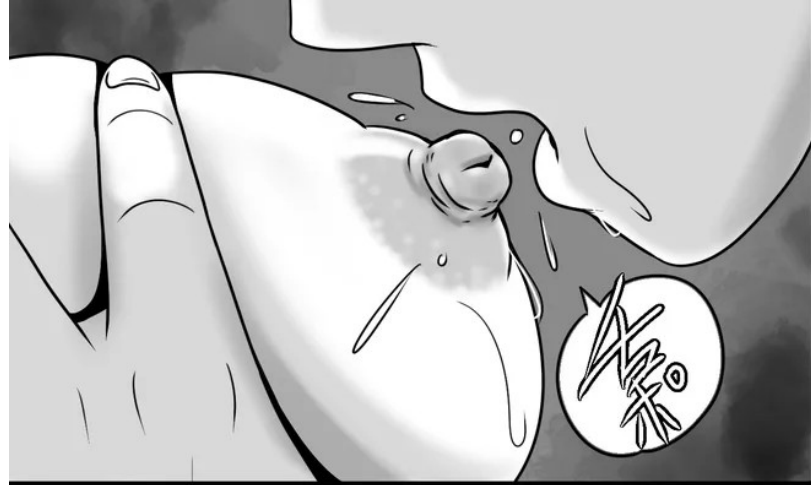
さらによく
伸びる！

そんなに
引っ張らないで！

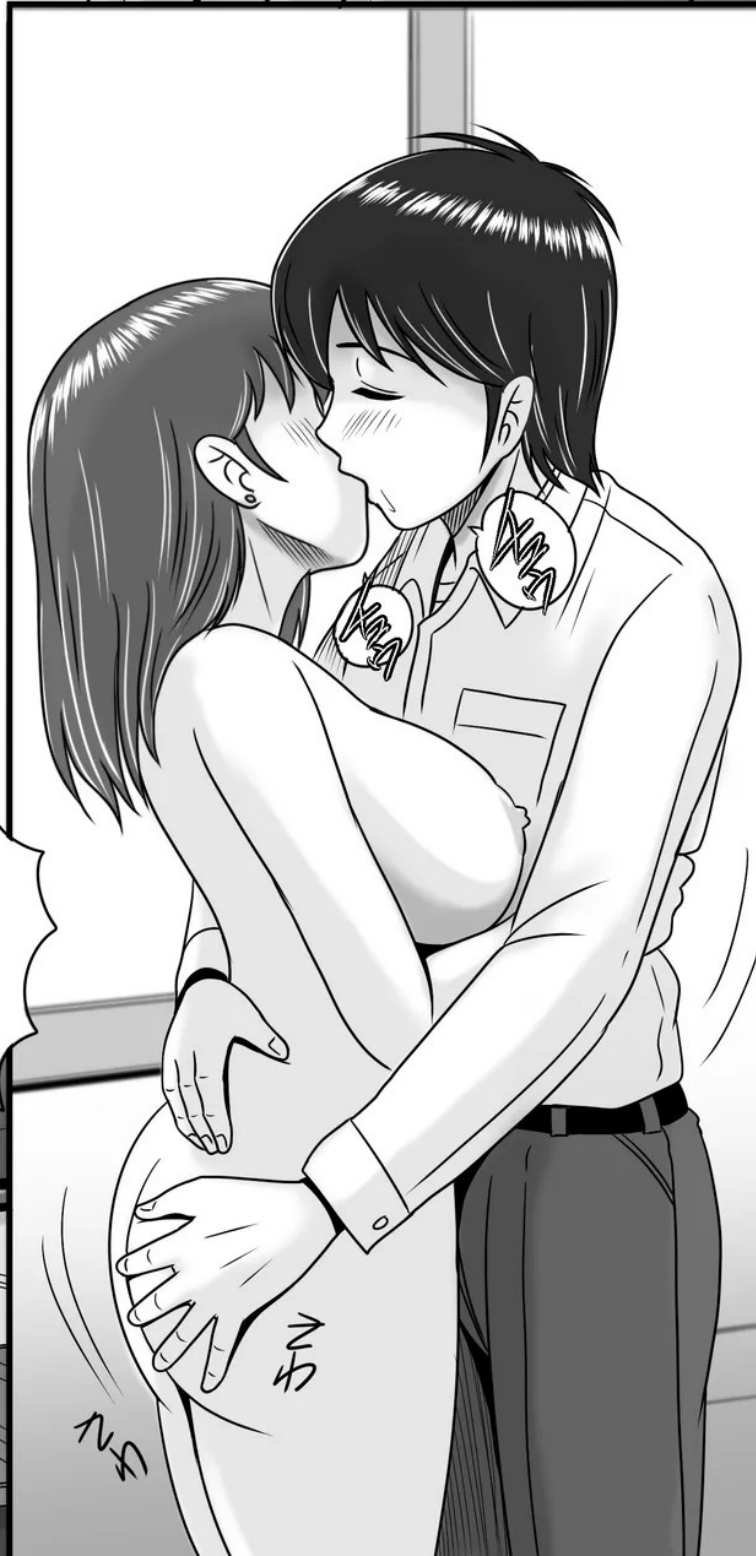
感度も
良さそうじゃん！

それに…



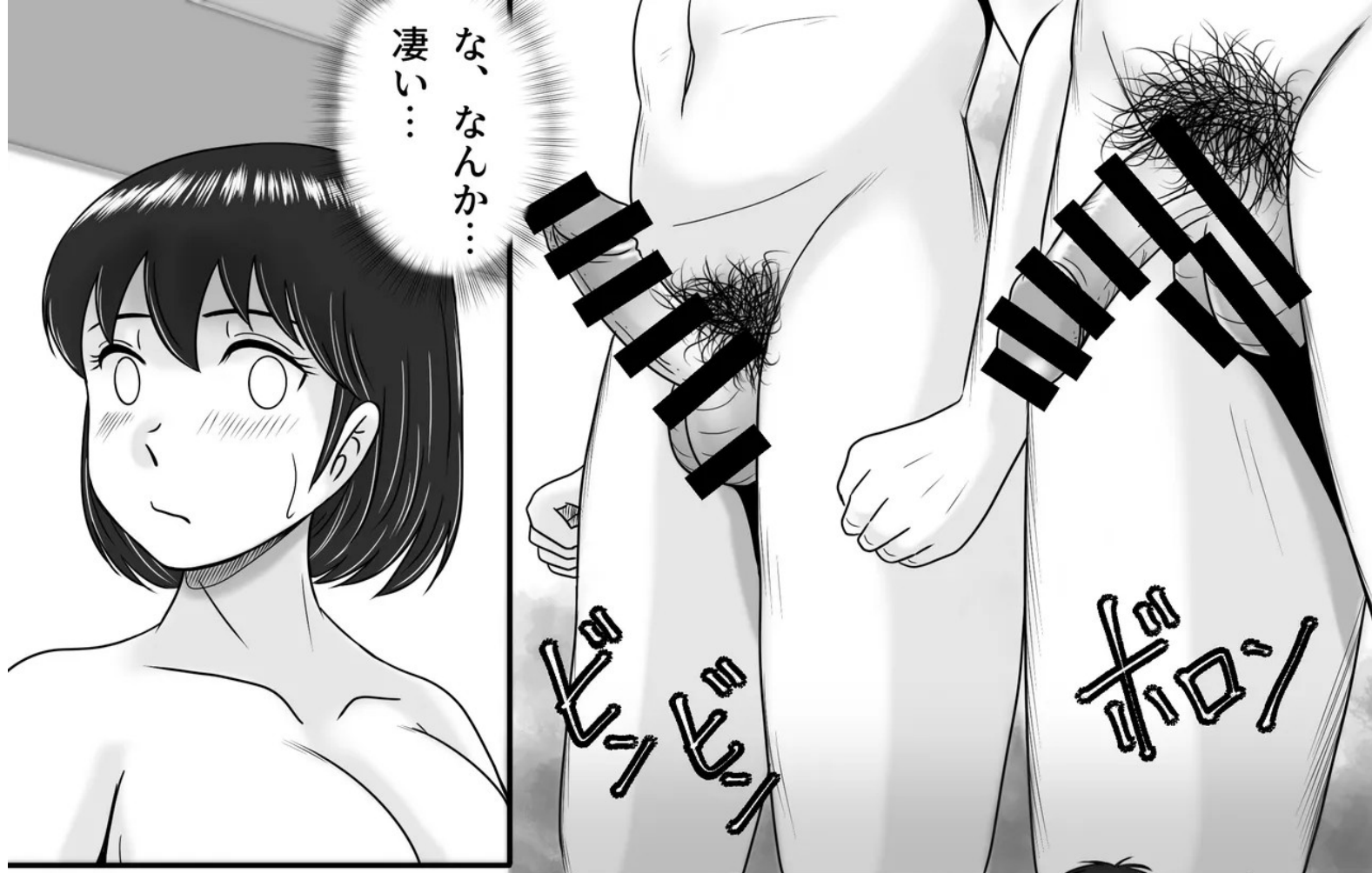


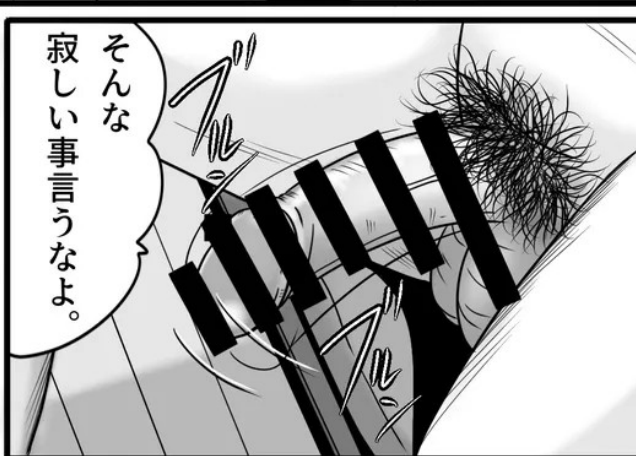
あっちの二人は
やっちやってる
けど良いの？

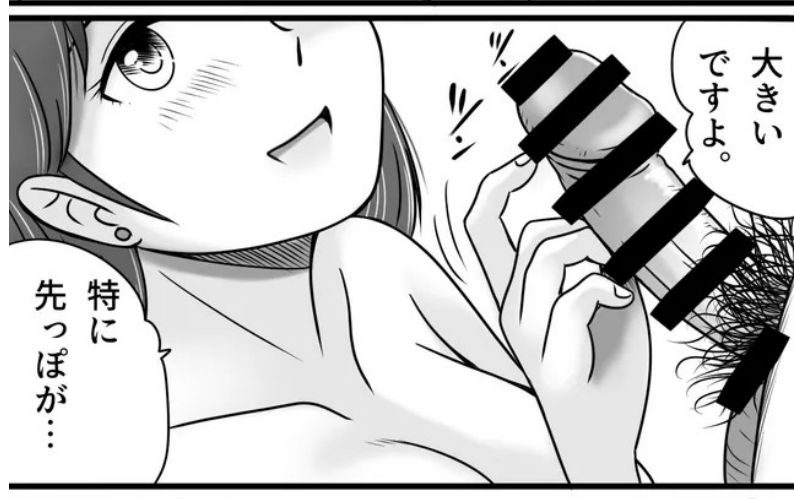












あーもう！
わかった
わかった！

してあげる！
してあげる！

そのかわり

さっさと
おっきく
しなさいよ！

まあ、

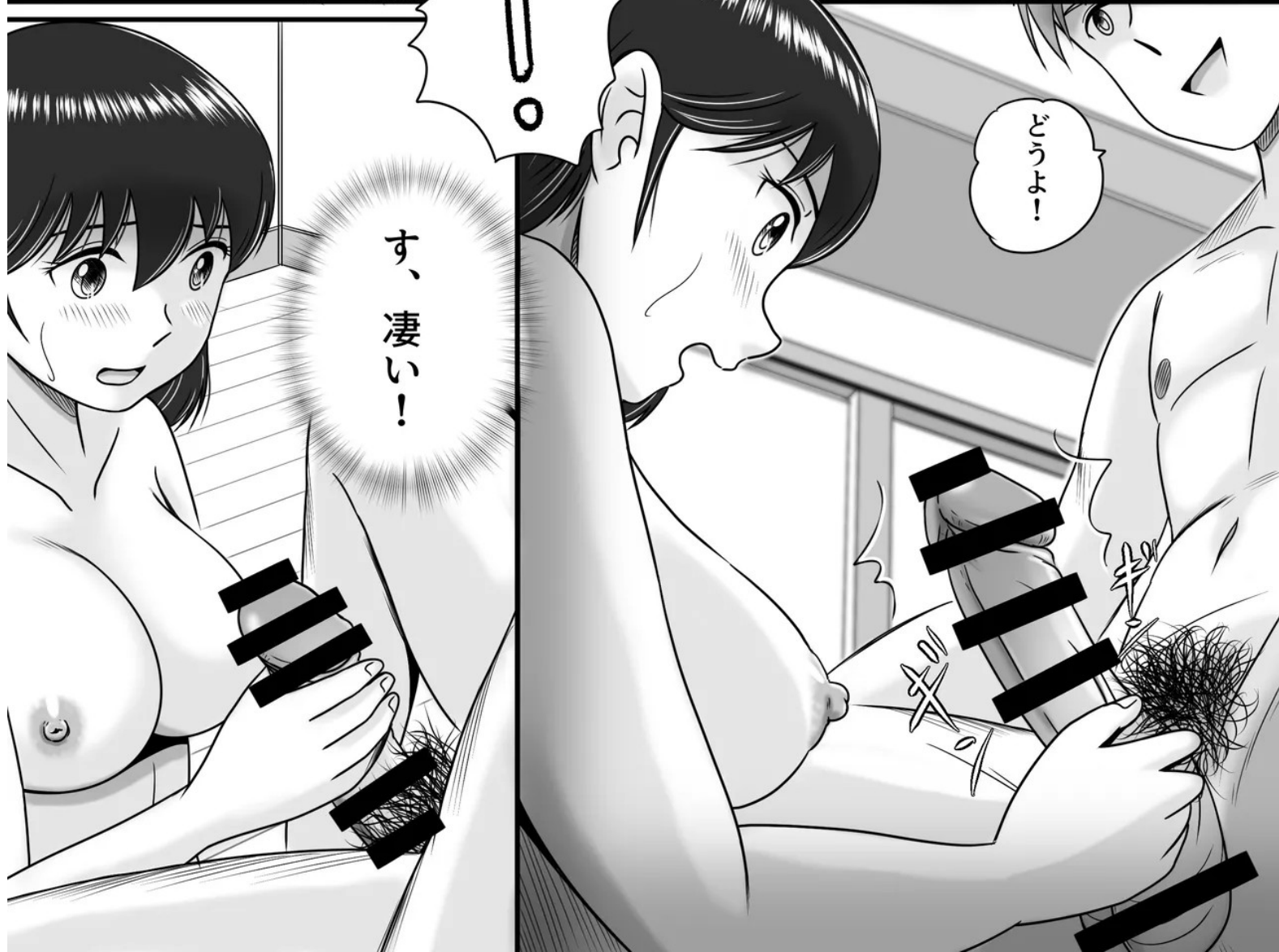
それは
詩織次第かな？

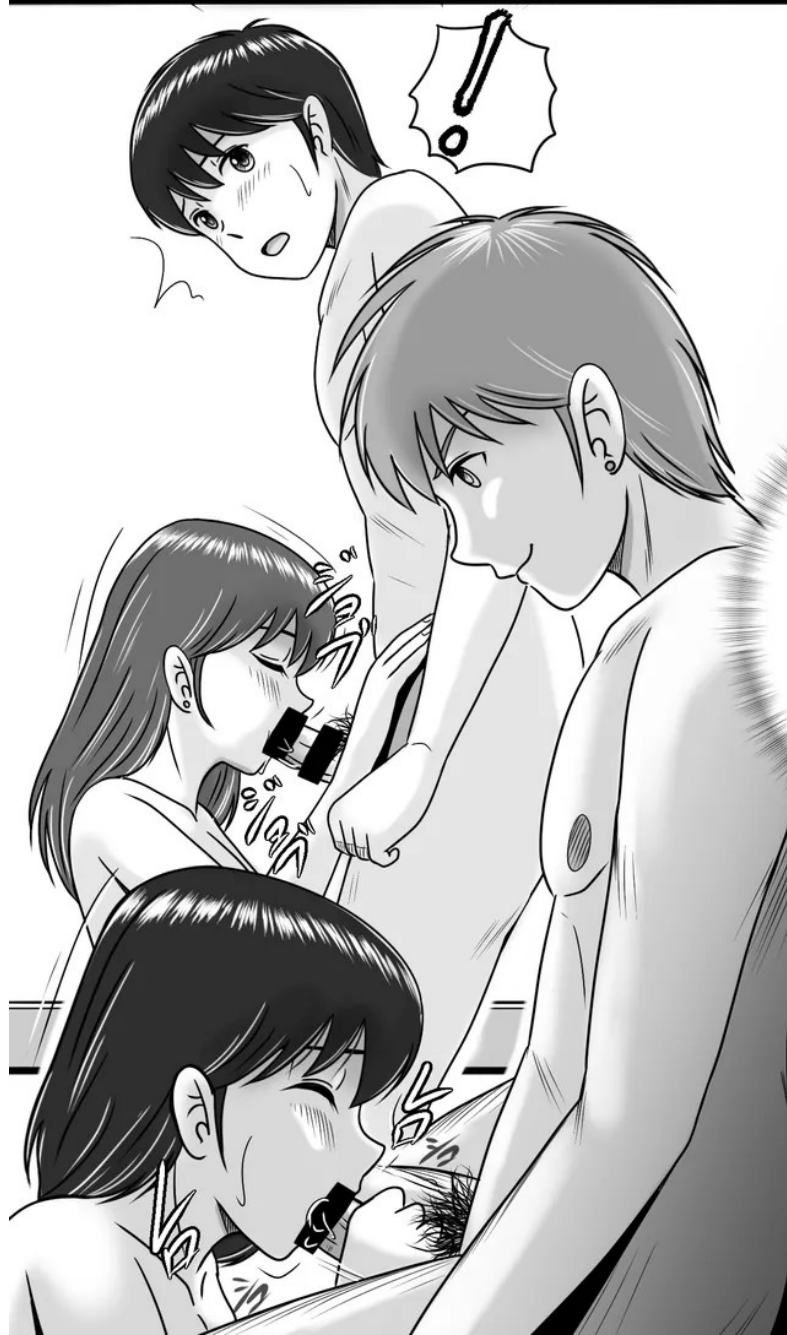
それにしても
輝一君のおちんちん
亮太と全然違う…

色も形も…

何より
なんか長い…

これで
大きくなったら





亮太先輩
よそ見しちゃ
嫌ですよ。



いやあ

やっぱ
ちよっと
気になっちゃって



ほら
雫がパイズリ
してあげますから
ちゃんと見て下さい。

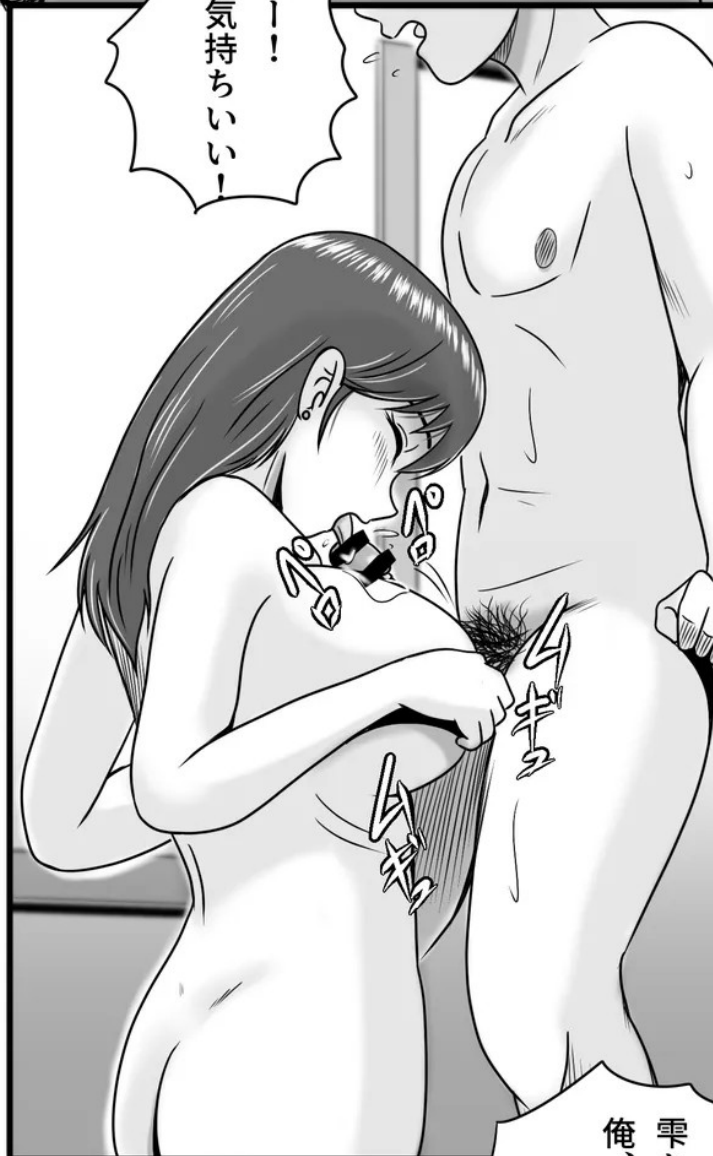
おっ！

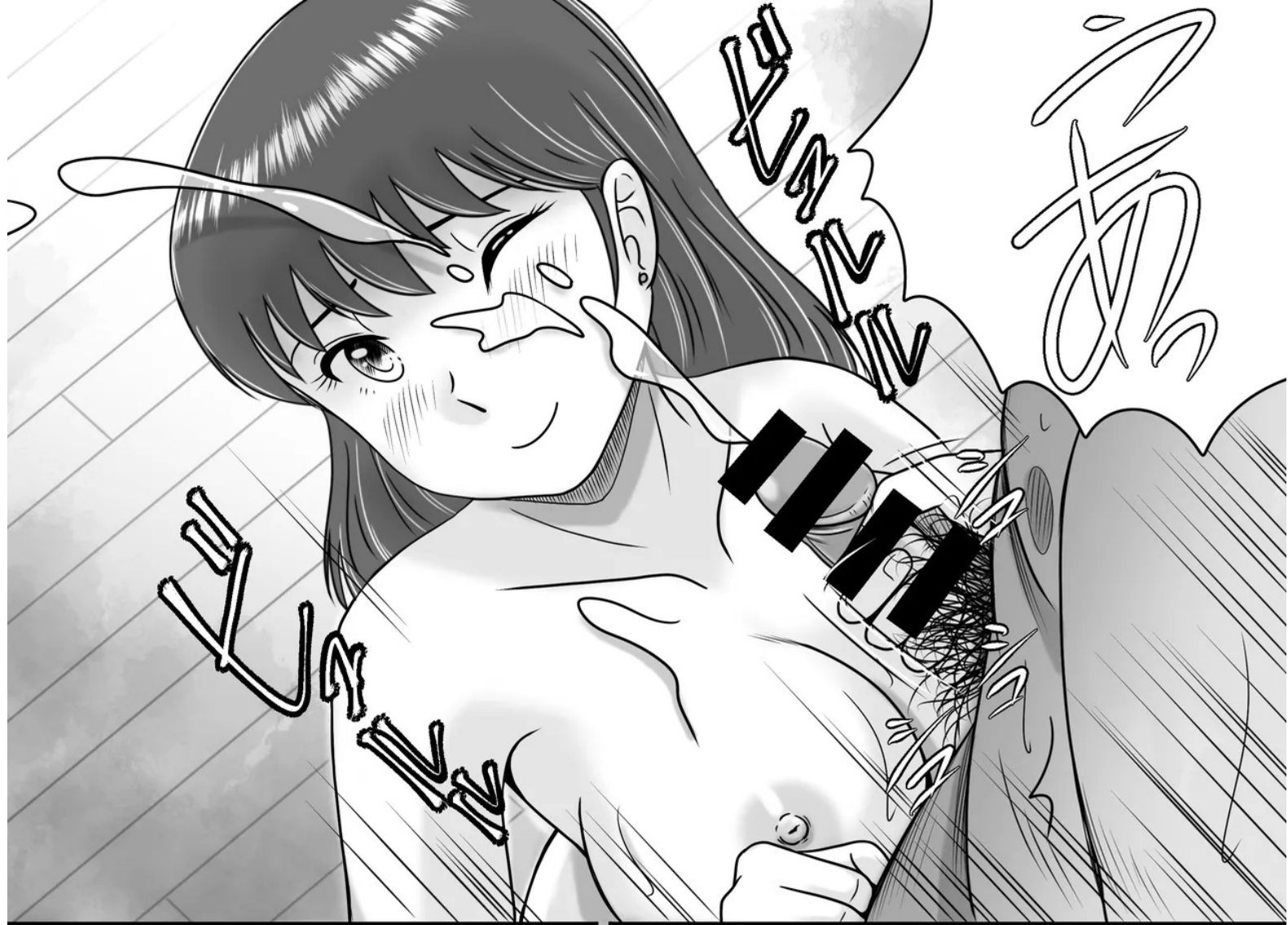


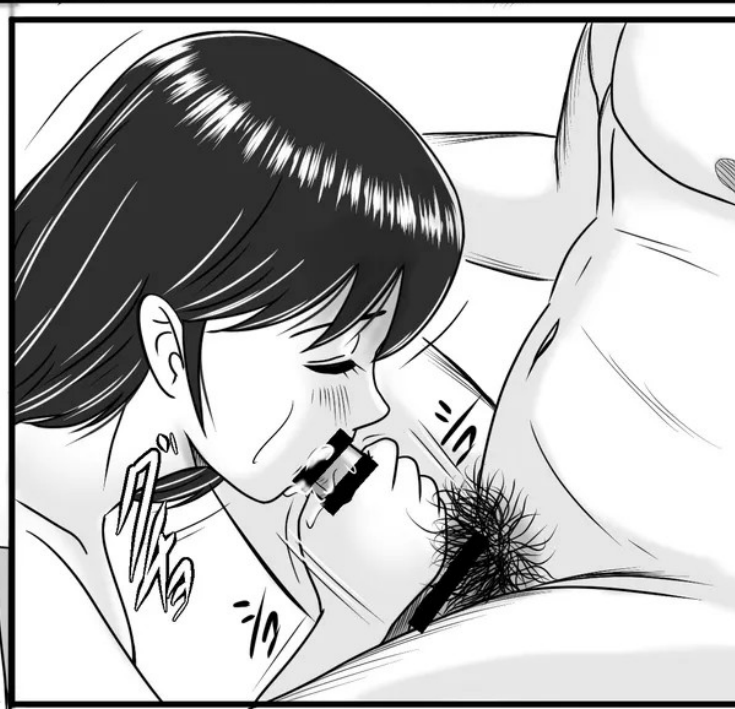
どうですか？
先輩。

私、
得意なんですよ。

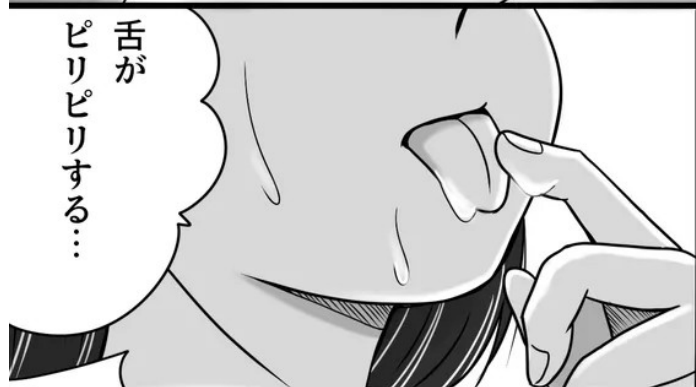














亮太は雫ちゃんのおっぱいが良いんですよ！



なんで
ごっくんなんだよ
僕なんて
口に出した事も
無いのに！

まあ
まあ



そんな事より



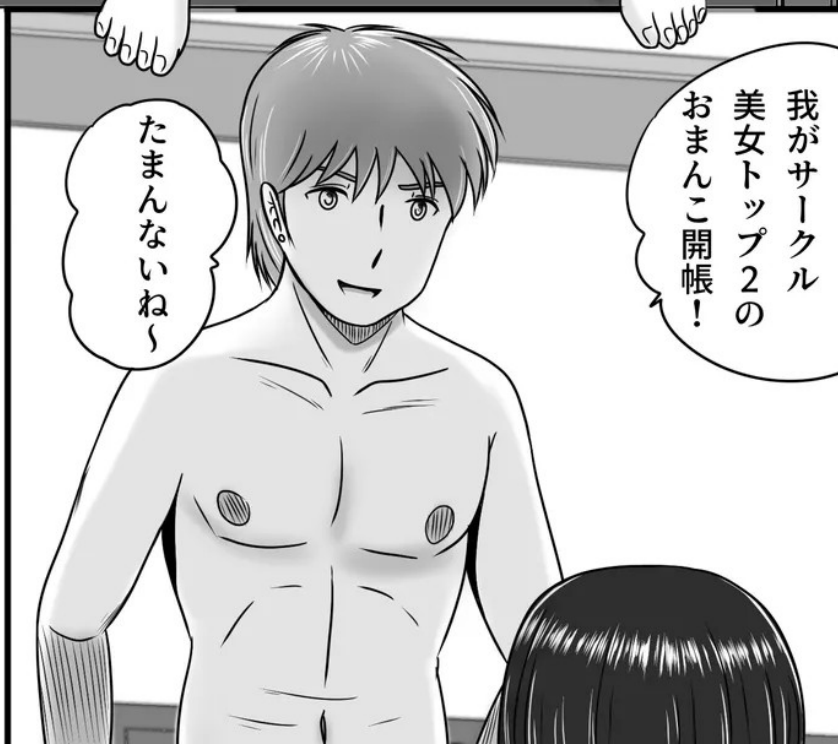
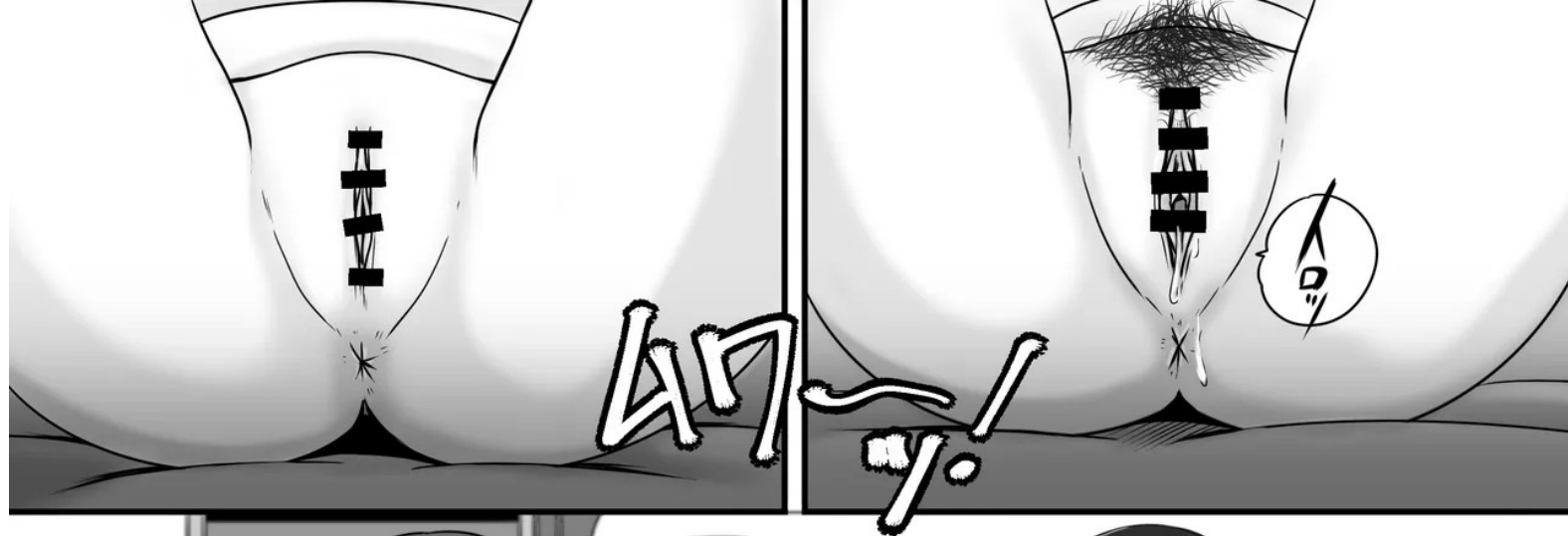
あんた達ばかり
気持ち良くなって
ずるいじゃない！

私達も
気持ち良く
してよ！

オッケー



任せろ！



何言ってんだ。

最高の
眺めじゃ無いか。

栗ちゃん、

本当に
綺麗なパイパンだね。

全部
綺麗に
脱毛しましたから

どうですか？
綺麗でしょ？

亮太先輩、

栗のおまんこ
いっぱい
見てください。

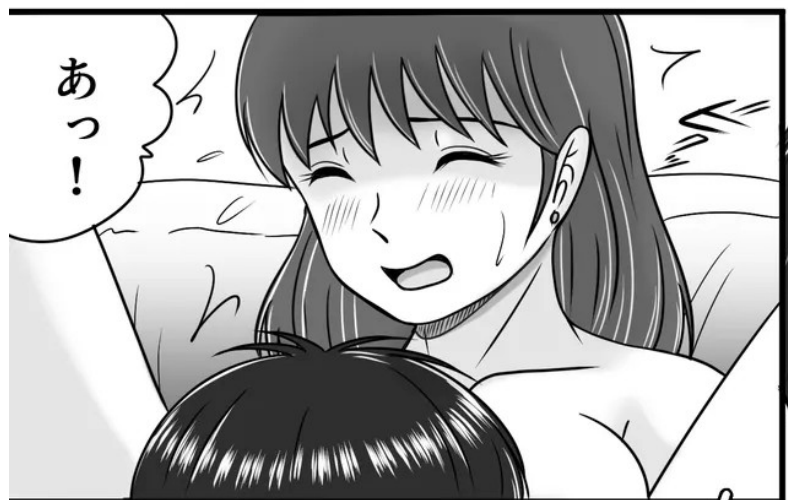


おー！

中まで
全部ピンク色で
凄く綺麗だよ

そうでしょ！





思った通り

詩織は

まんこもエロいな。

な、何よ

それ！

は、
恥ずかしい…

でも
色はピンクで

はっ
あ

思ったより

凄く

綺麗じゃないか

なっ！

何だと
思ってたのよ！

クリデカ！

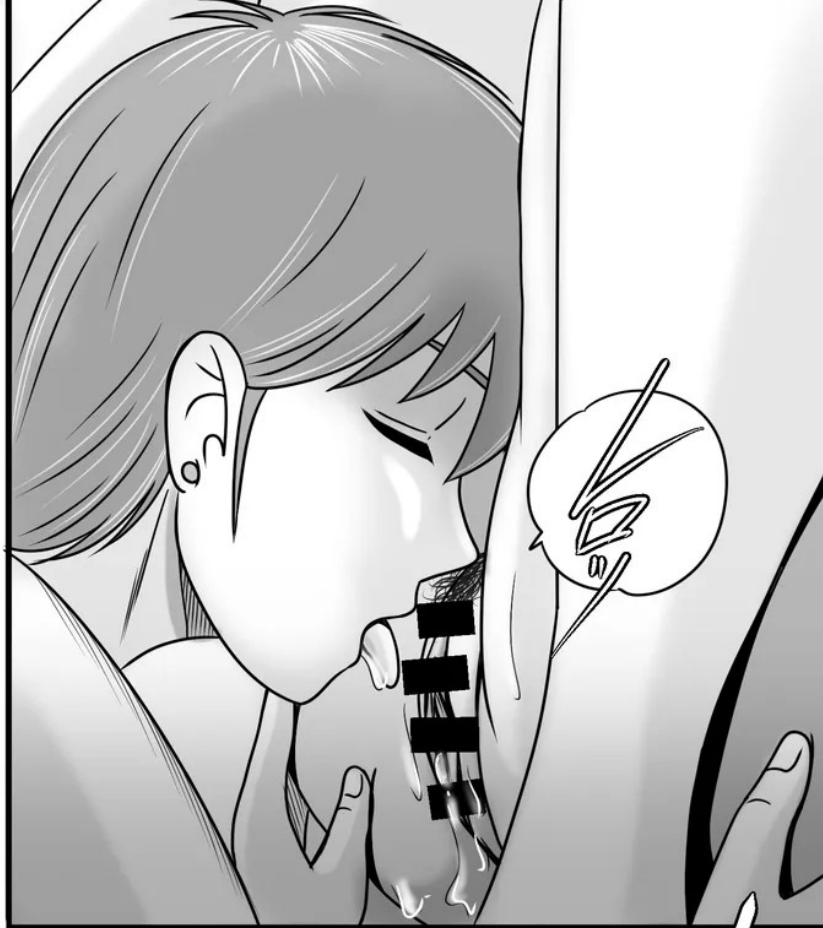
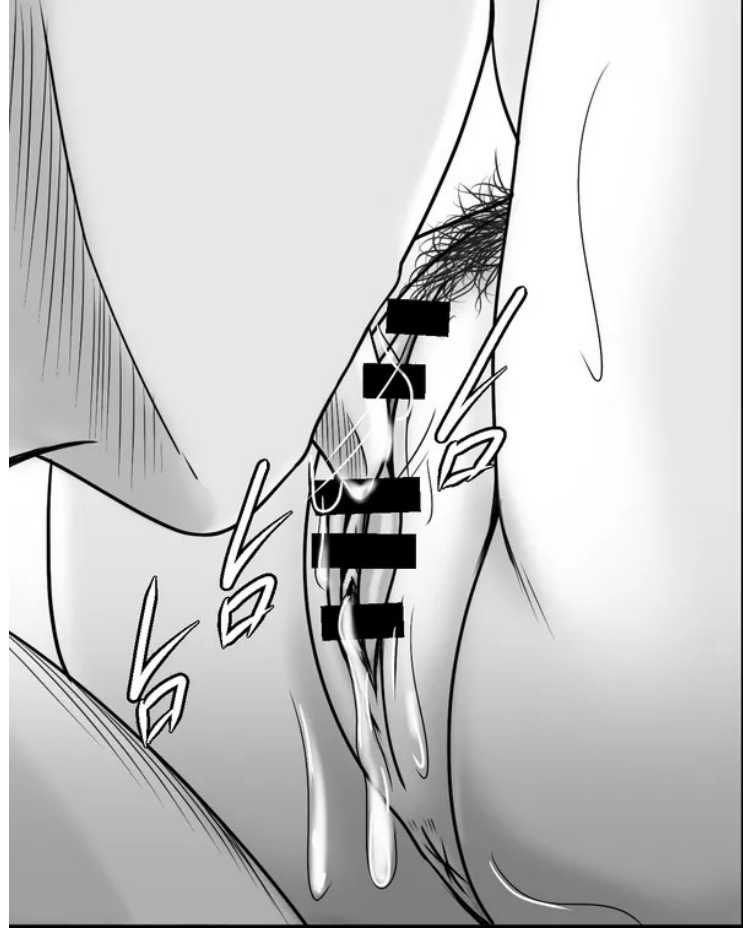
感度も
良さそうじゃん。

ん

ん

あ





き、気持ちいい！

あ

クリ！

気持ちいい！

あ



先輩！

もう
いきそうです！

あー！
イクイク！





栗ちゃん
いいな…

あんなに
気持ちよさそうに

ね、ねえ
輝一君…

どうした？

俺のクンニも
なかなかだろう。

あ、あの
お願いしても良いかしら…

私も…
そろそろ
いきたいんだけど。

オッケー

じゃあ…





で、
出ちゃう...



ね、ねえ
輝一君…

でも、もっと
気持ち良く
なりたい！

ベッド行って
続きしよ…

私達も
行きますよ。

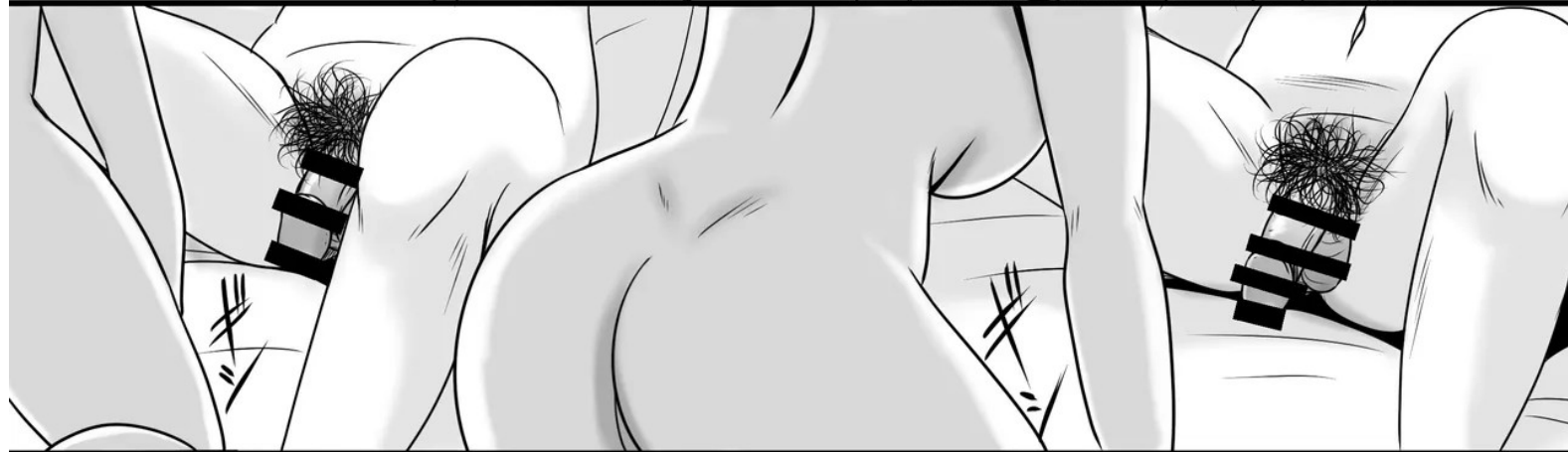
ほら
亮太先輩。

詩織！
完全に
スイッチ入ったな！

ああ…

いっぱい
いかせてやるよ。

しおり〜！



さっきは
余裕が無かった
けど…

改めて
見ると
本当に大きい…

詩織の
好きに
していいよ。



凄い…

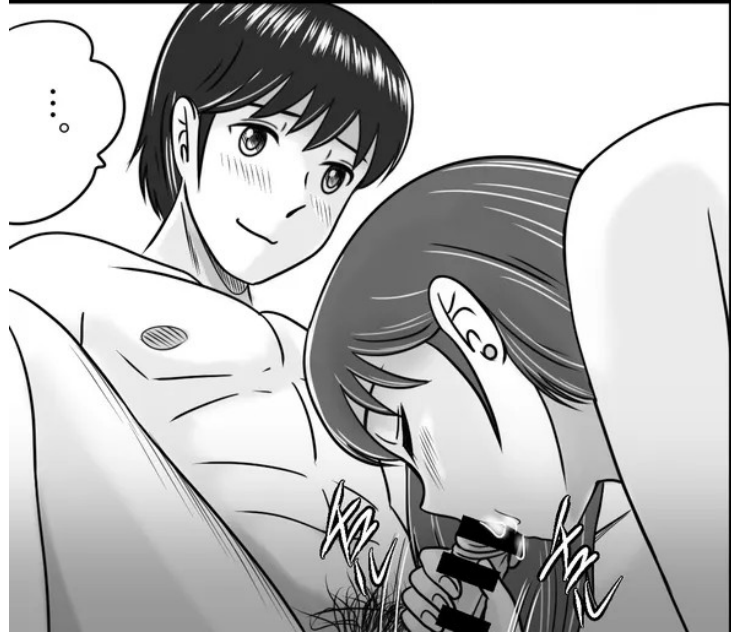
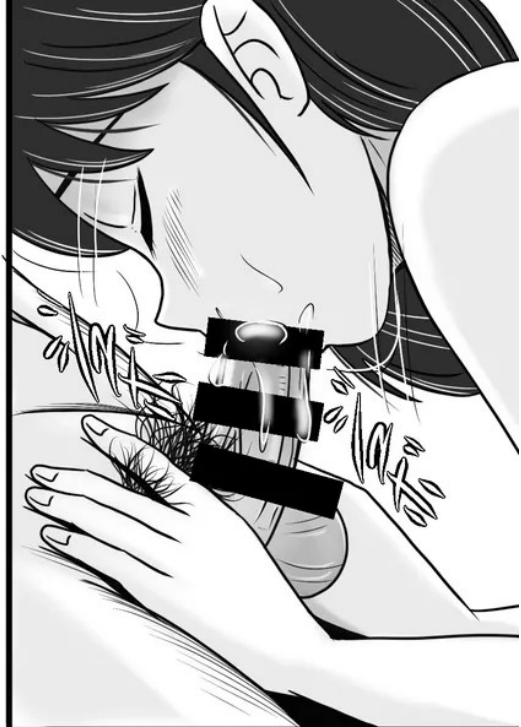
もうこんなに
硬い…

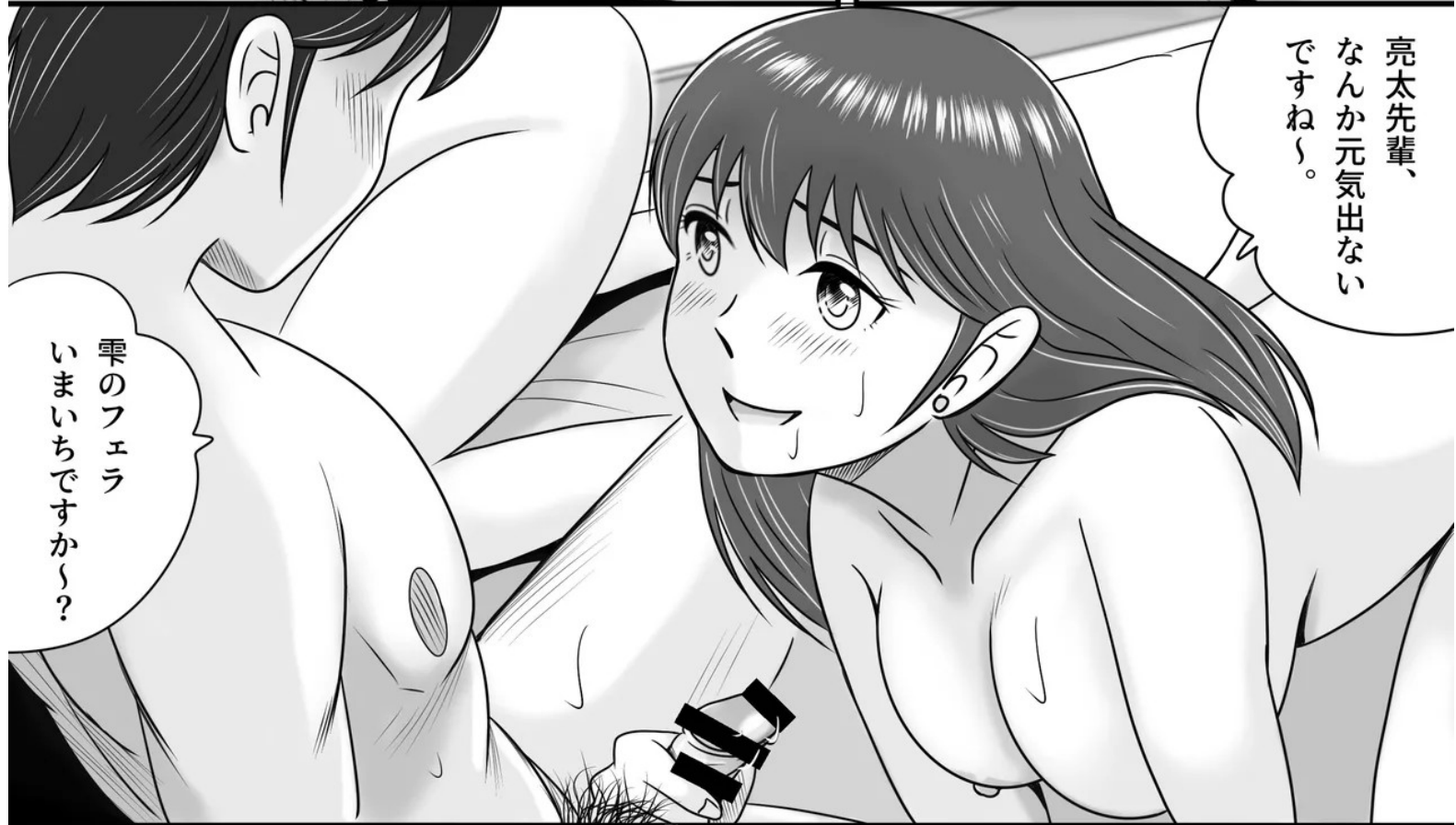
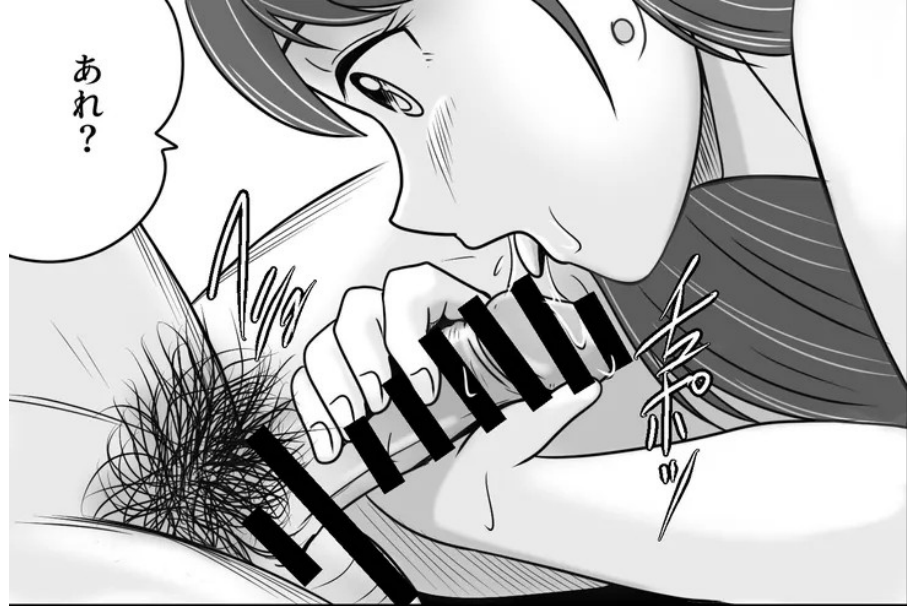




その調子で
タマの方も
頼む。







先輩の
大好きな
パイズリですよー。

コレなら
元気になるでしょ！

ほら！
もう硬くなった。

あ

し、
栗ちゃん

気持ちいい！

亀頭の
乳首責めですよー。

じゃあ
こんなのどうですか？

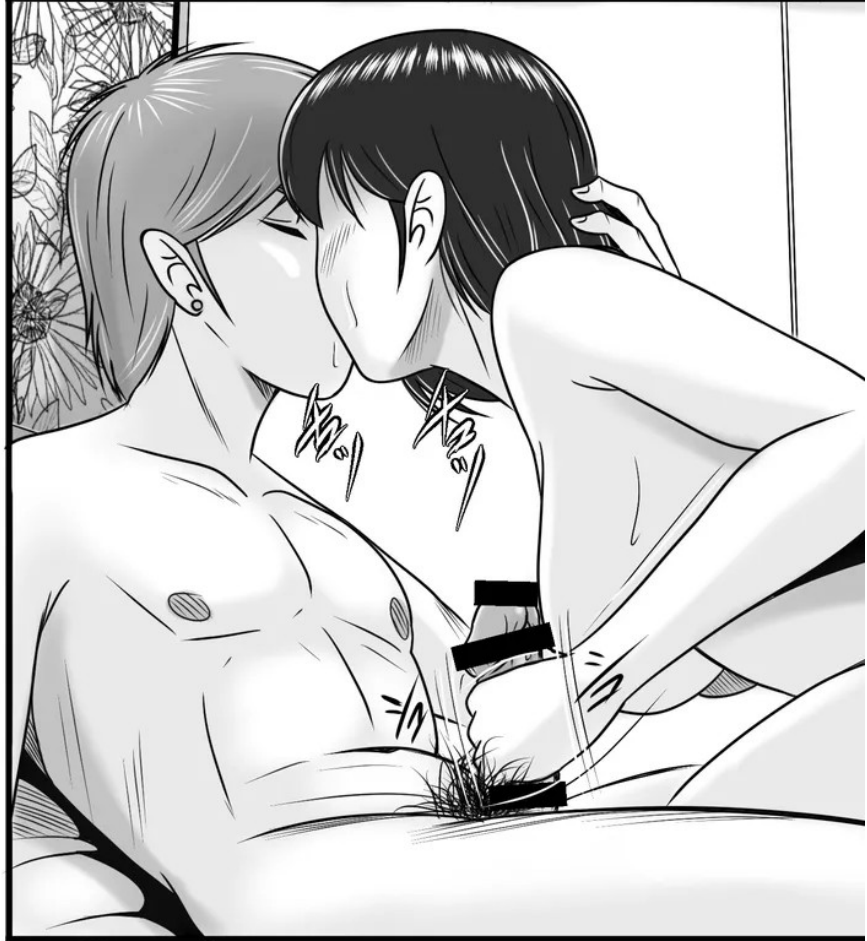
あ
あ



なあ
詩織。

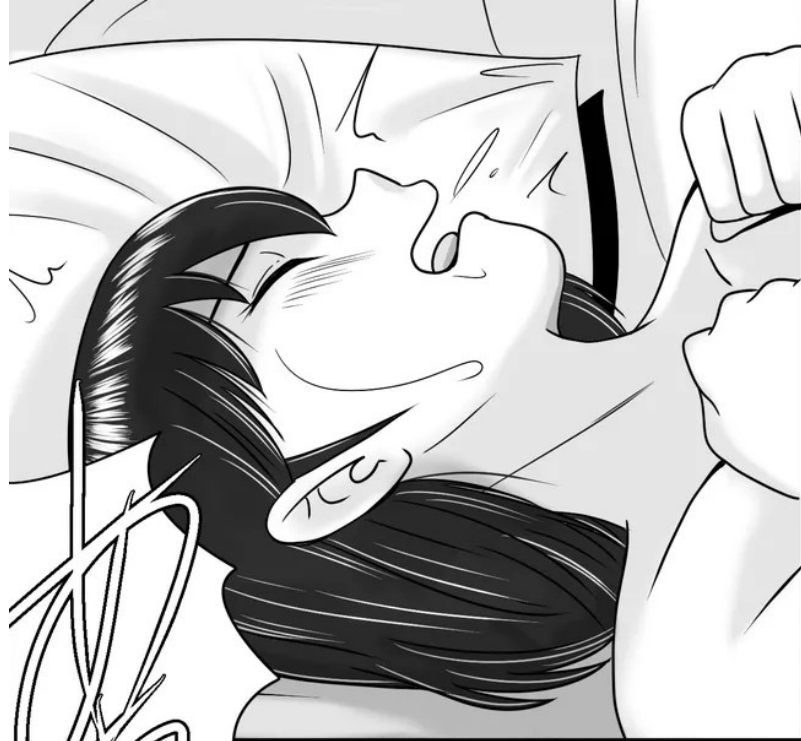
キス
してくれよ。











どうだ
詩織！

全部
入ったぞ。

凄い！
お腹が
ジンジンする！

輝一君の
おちんちん！

凄い
奥まで入ってる！

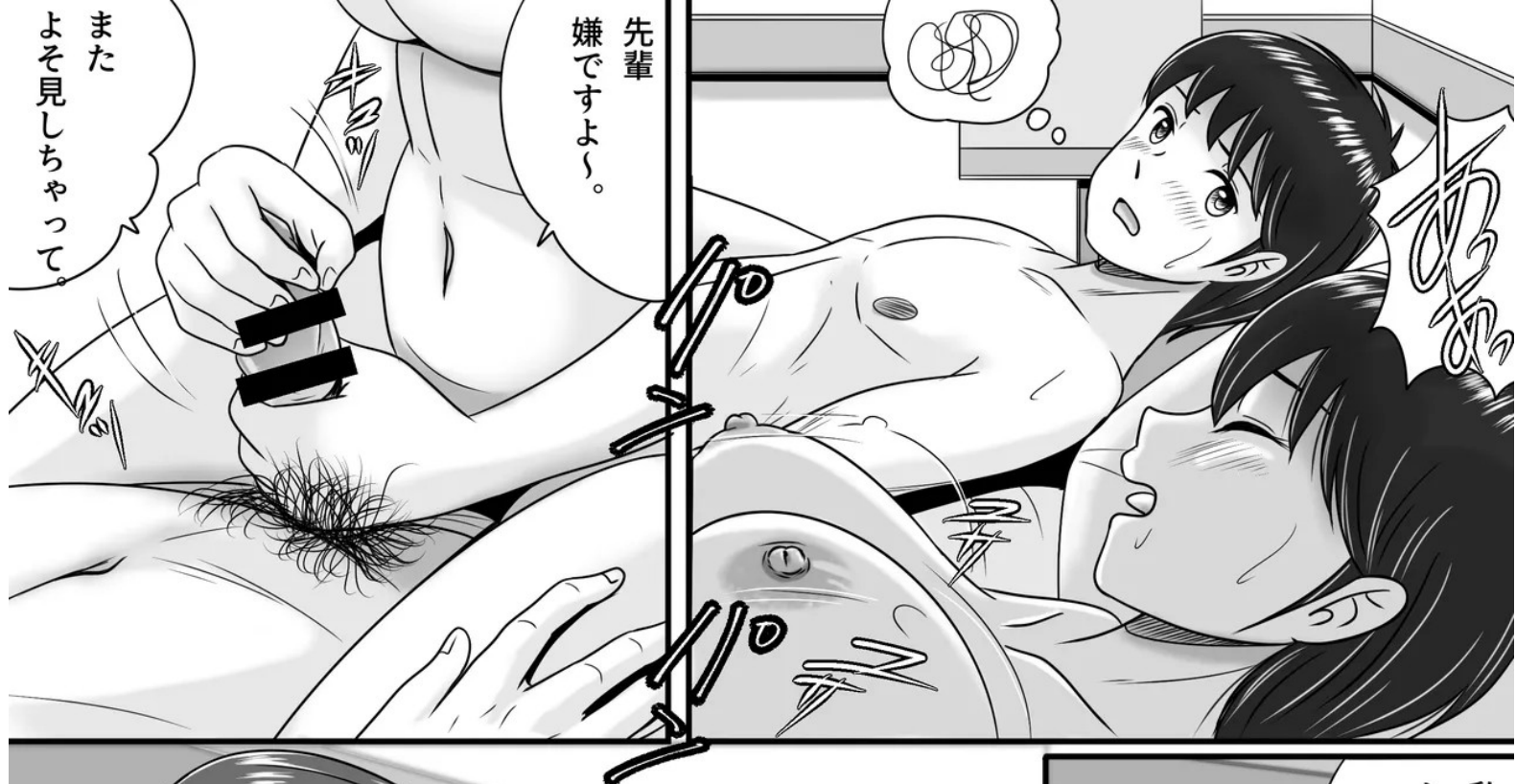


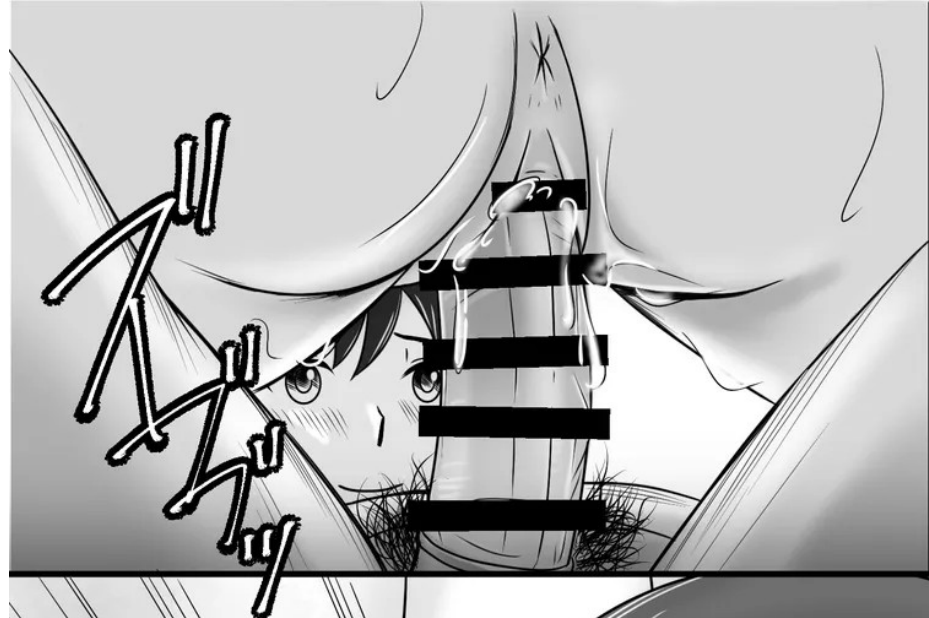
じゃあ
動くぞ。

き、輝一君！
ダメ！

もう少し
ゆっくり！



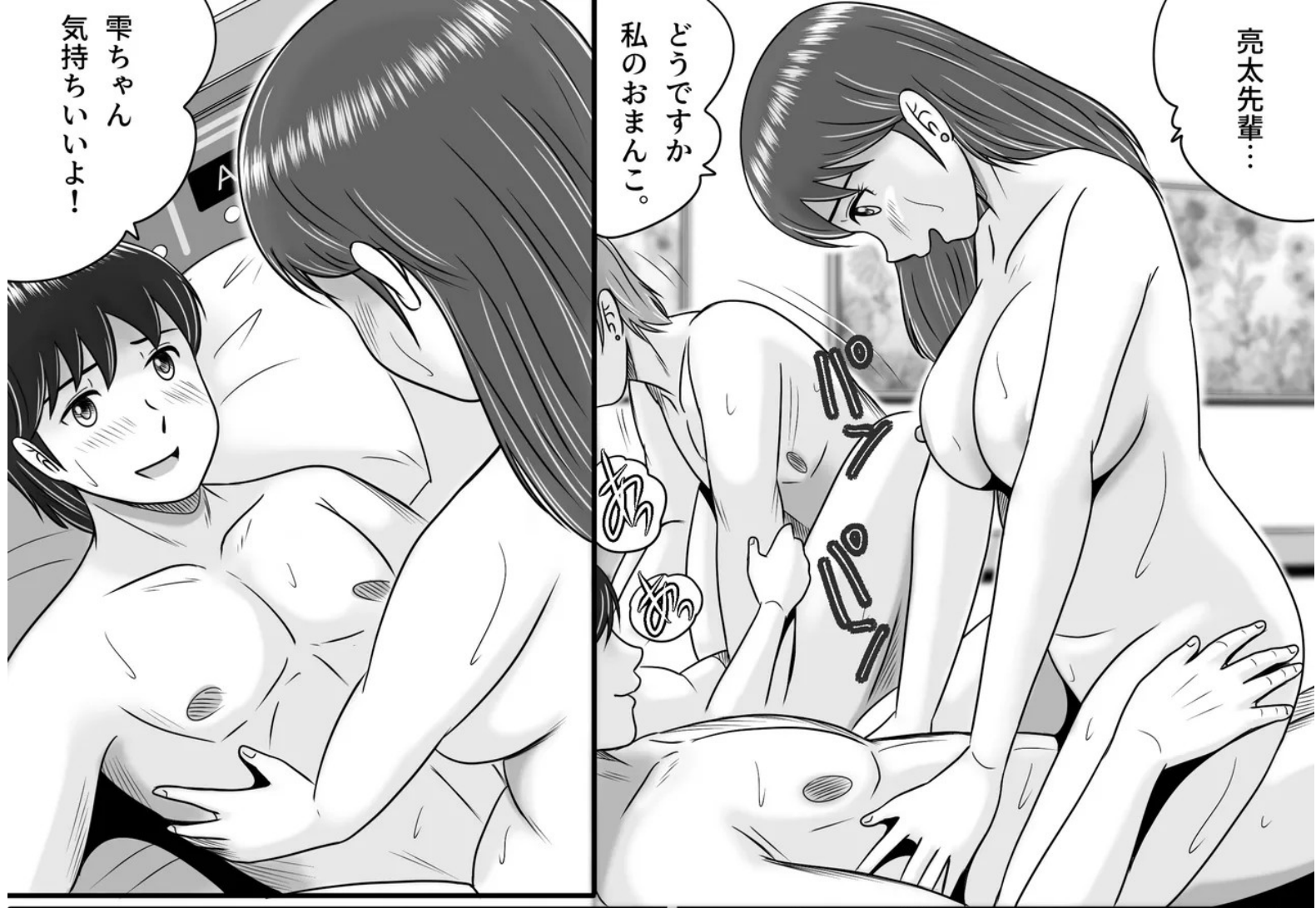




亮太先輩…

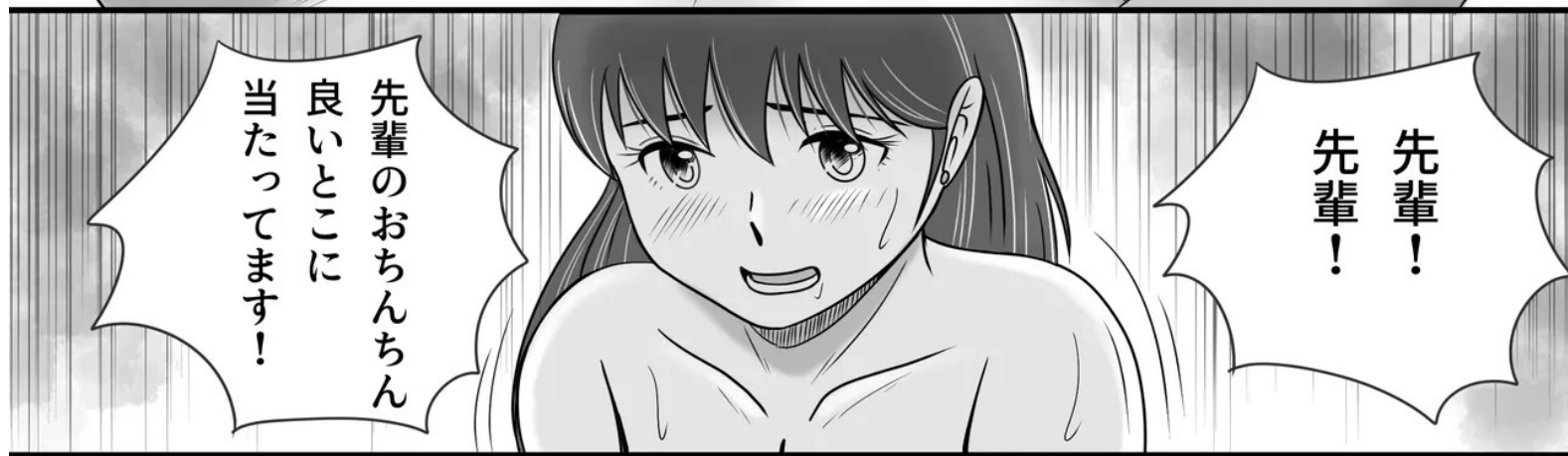
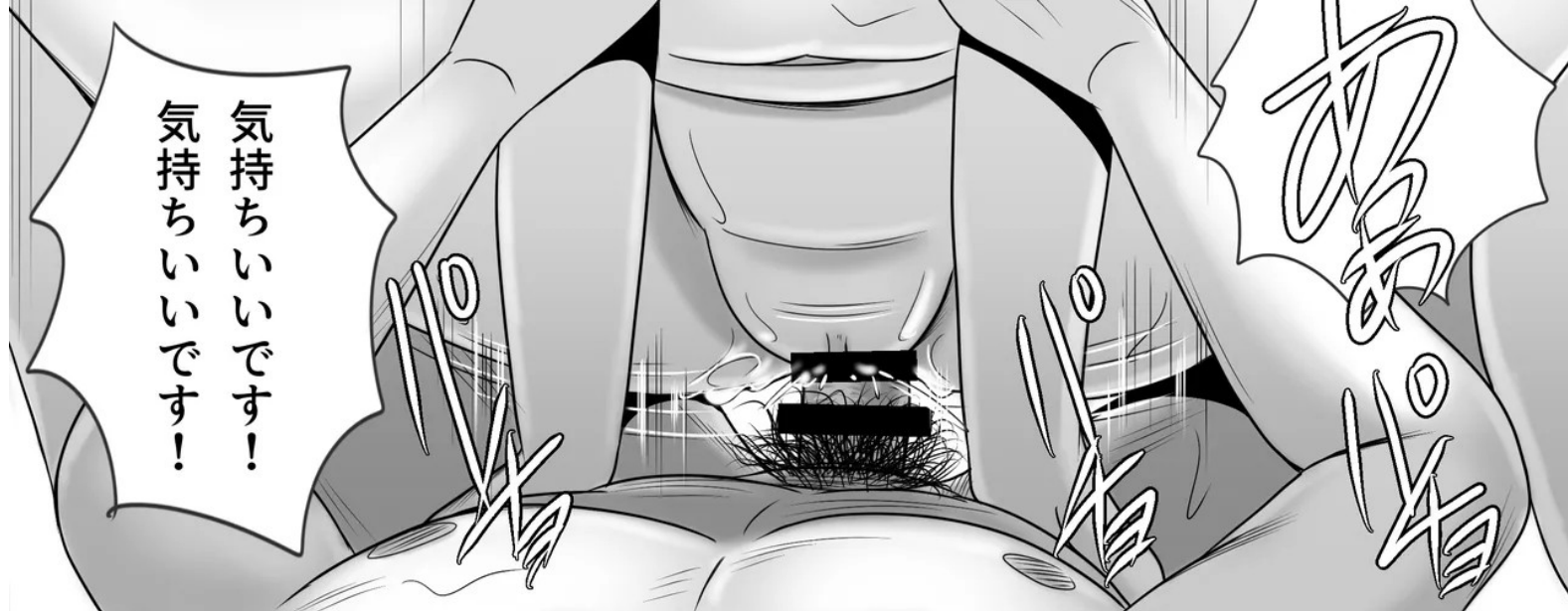
どうですか
私のおまんこ。

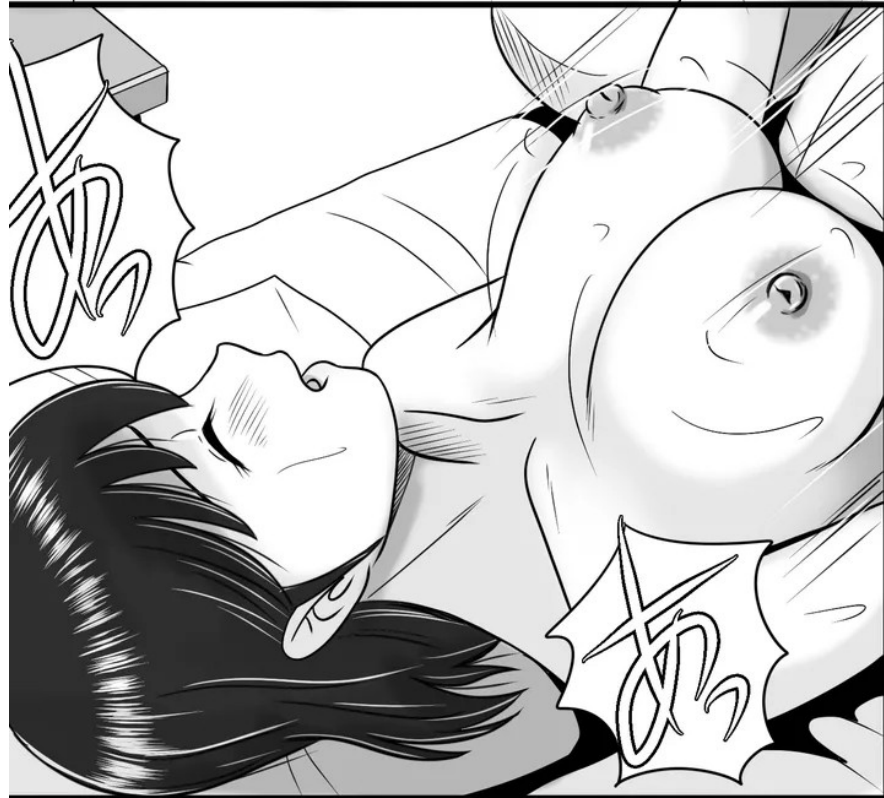
栗ちゃん
気持ちいいよ！



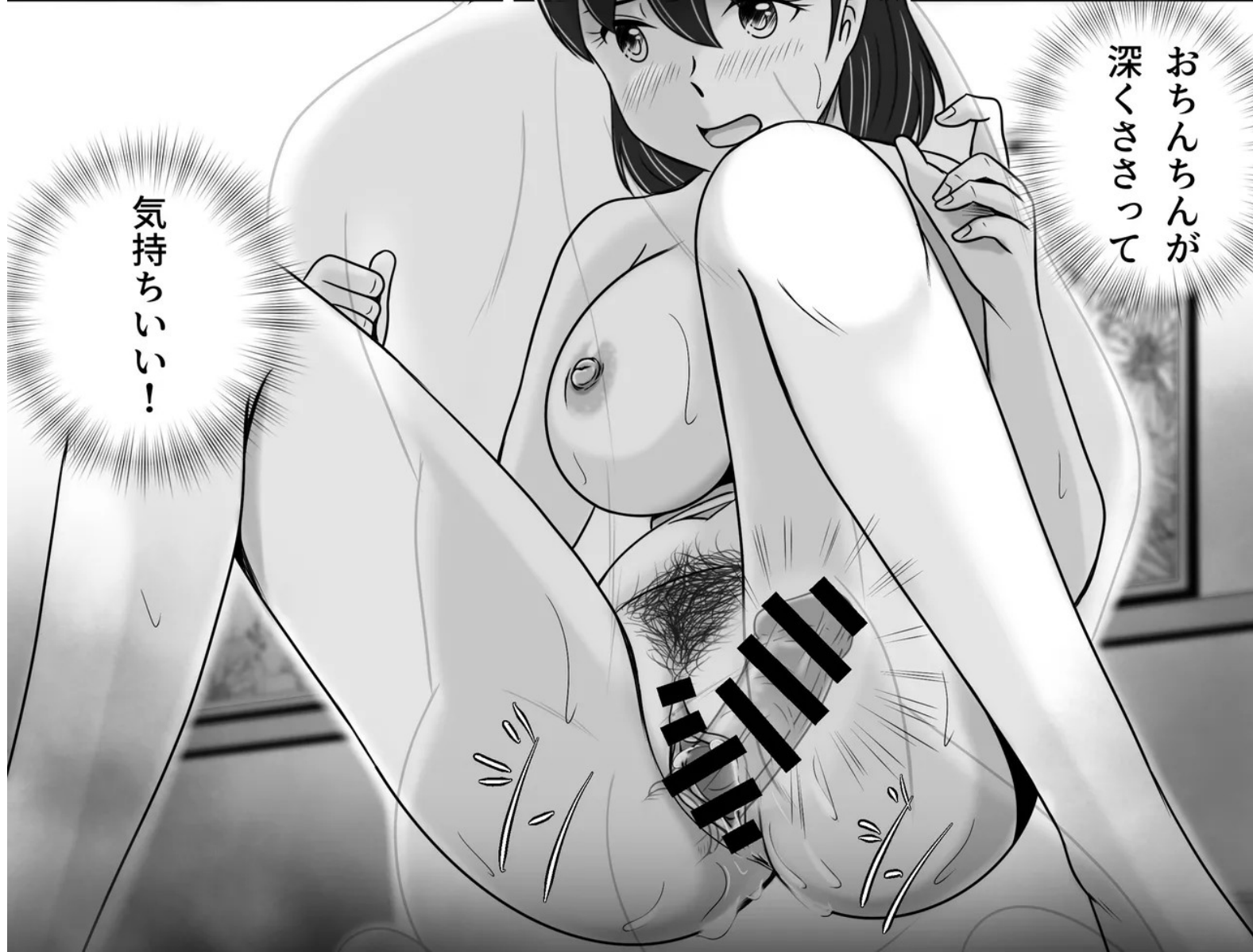
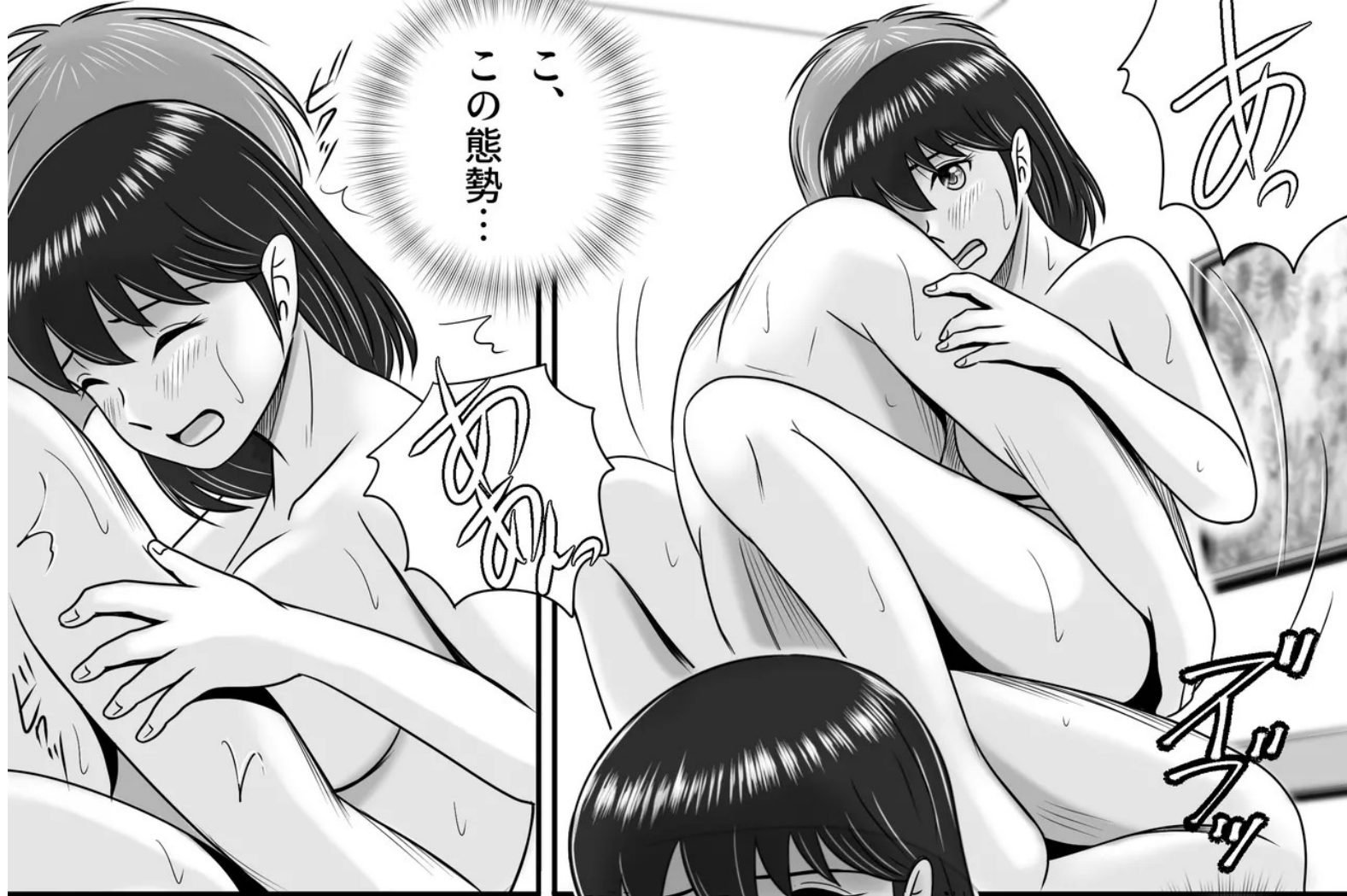
私も先輩のおちんちん
気持ちいいです！













何だ？
キスのおねだりか？



ねえ、
輝一君…



キス…
気持ちいい！

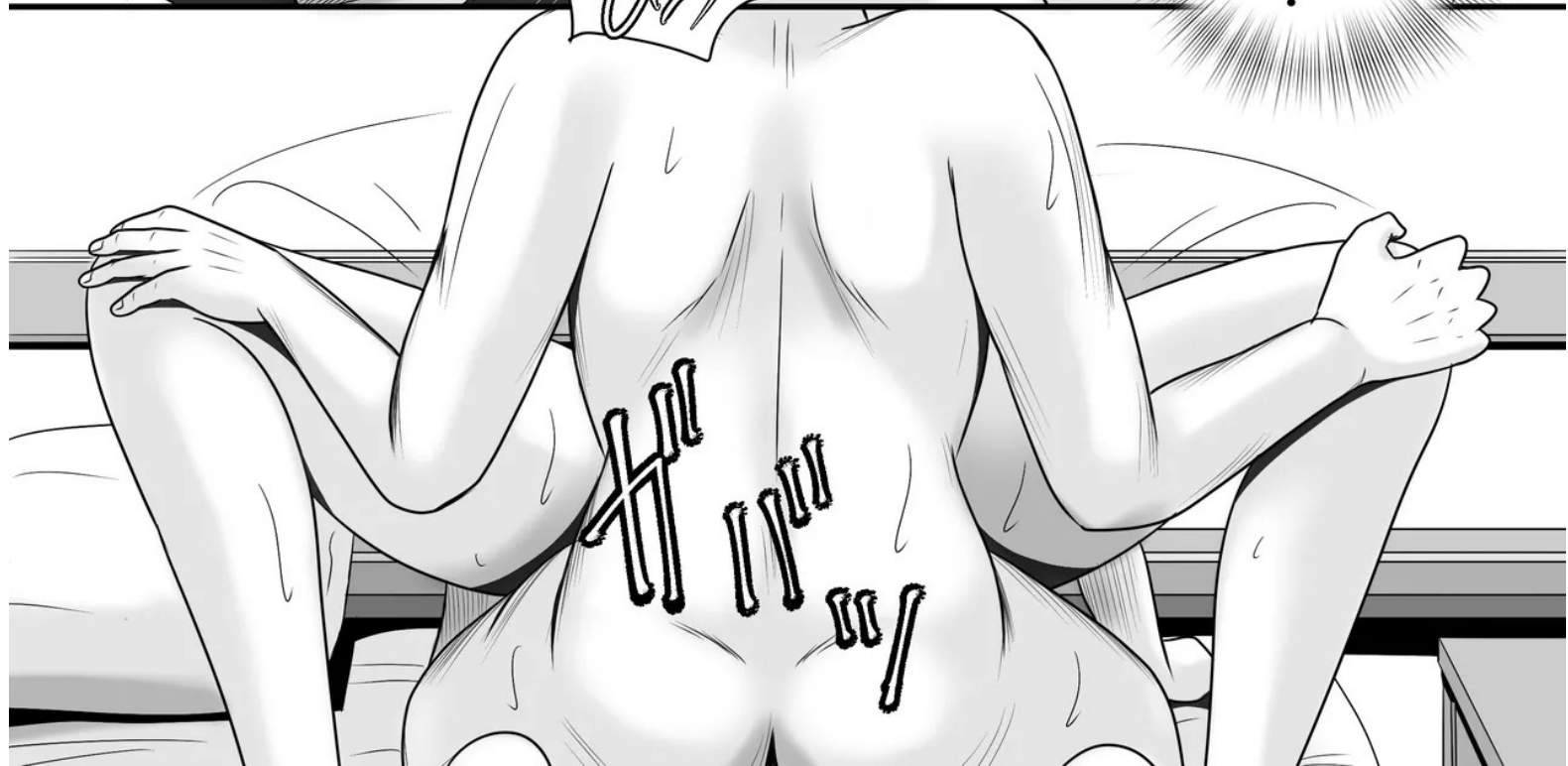
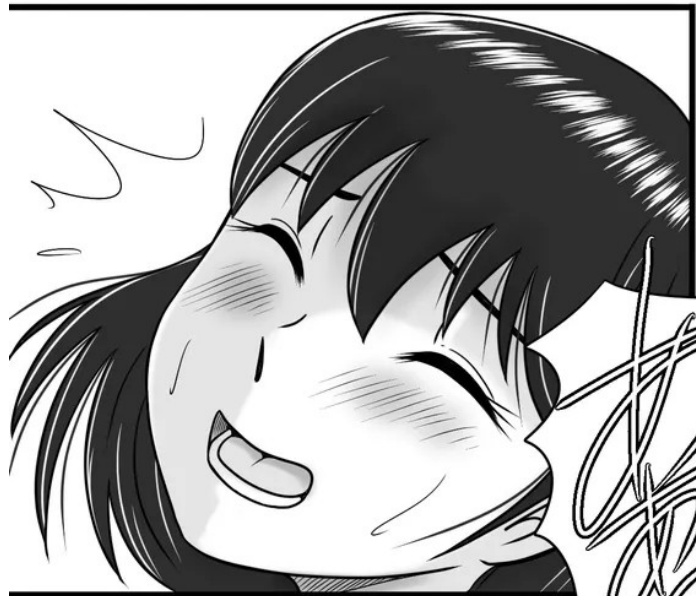


すっかり
エロ詩織全開じゃ無いか

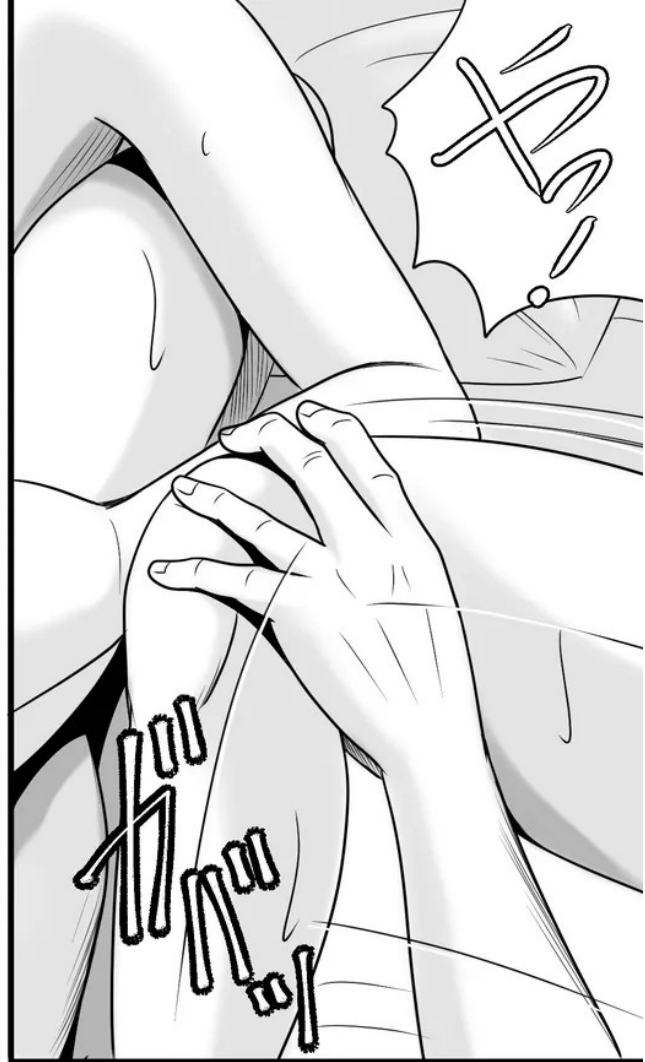


んんん

んん



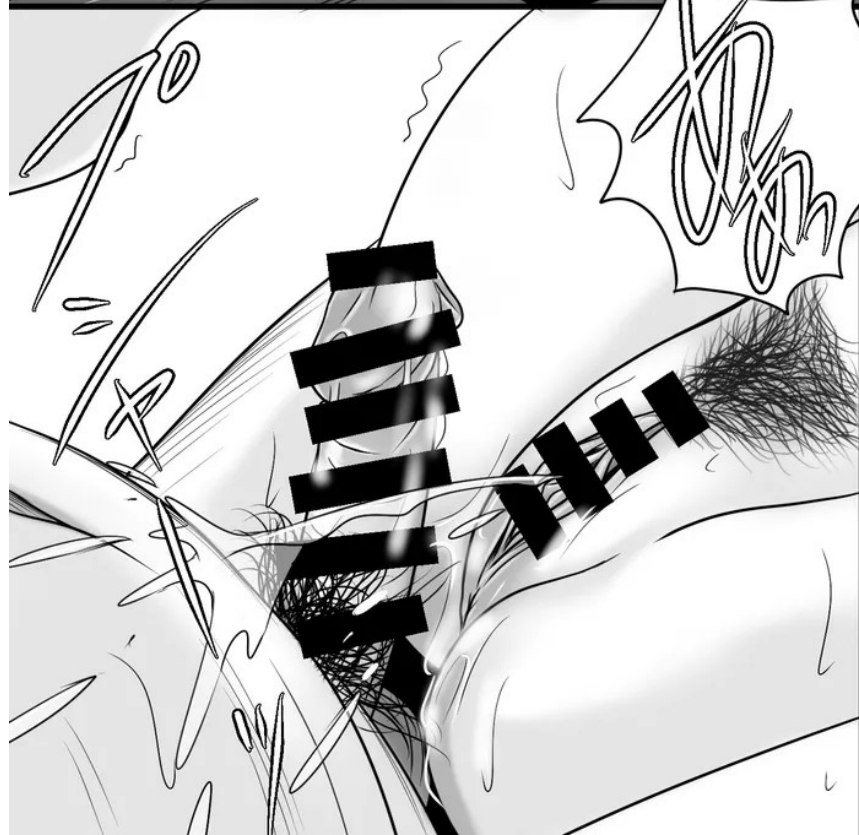








ああ！
また出ちゃう！







早く
入れてくれ
ってか？

ところで詩織、
今日は
大丈夫な日なのか？

えっ！

い、一応…

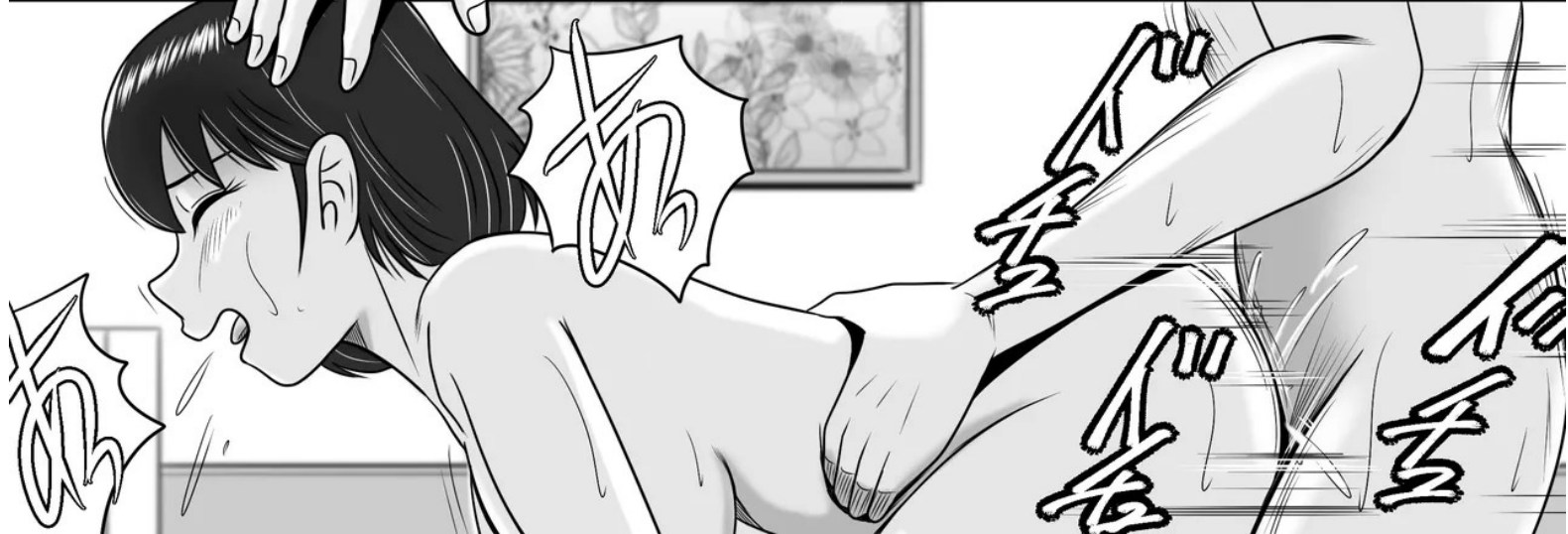
じゃあ…

いいよな…

ちよ、
ちよつと
輝一君！

何を！

^^-！





へへっ！
ささっささっ！

さすがに
それは…

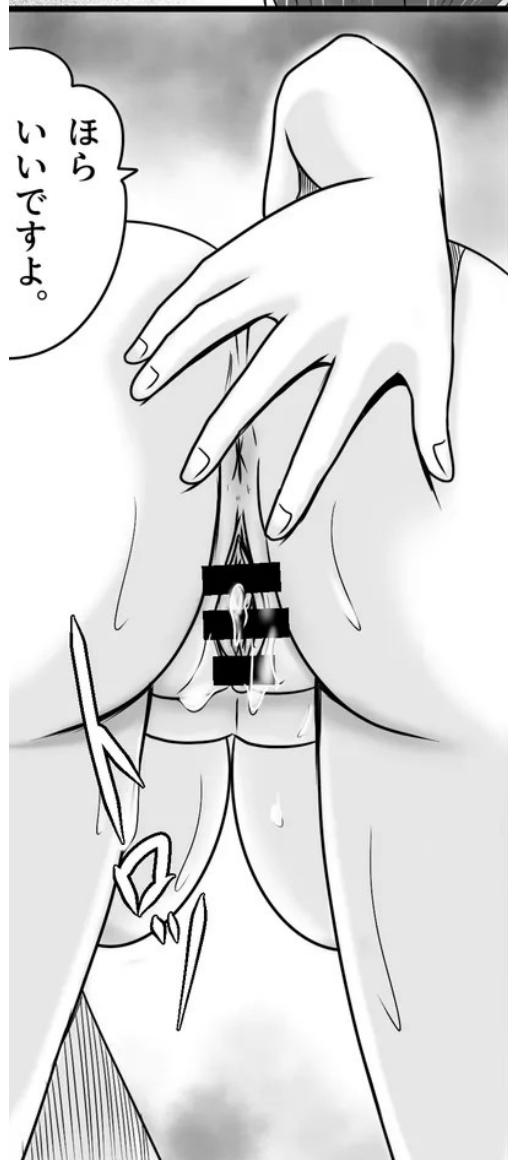
あ あ



き、輝一！



亮太先輩！



ほら
いいですよ。



先輩も
生でしませんか？

ハッ

薄いゴムが
無いだけ
なのに…

あ

輝一君と
一つになってる
感じがする

あ

あ

あ

あ

あ

なんか動物の
交尾みたい！

き、
気持ちいい！

いっしょ

どうだ？
生はいいだろう？

き、
輝一君！

このまま
思いつき
突いてやるよ！





そんなに
強く
突かれたら！

いっ
ちゃ
う！

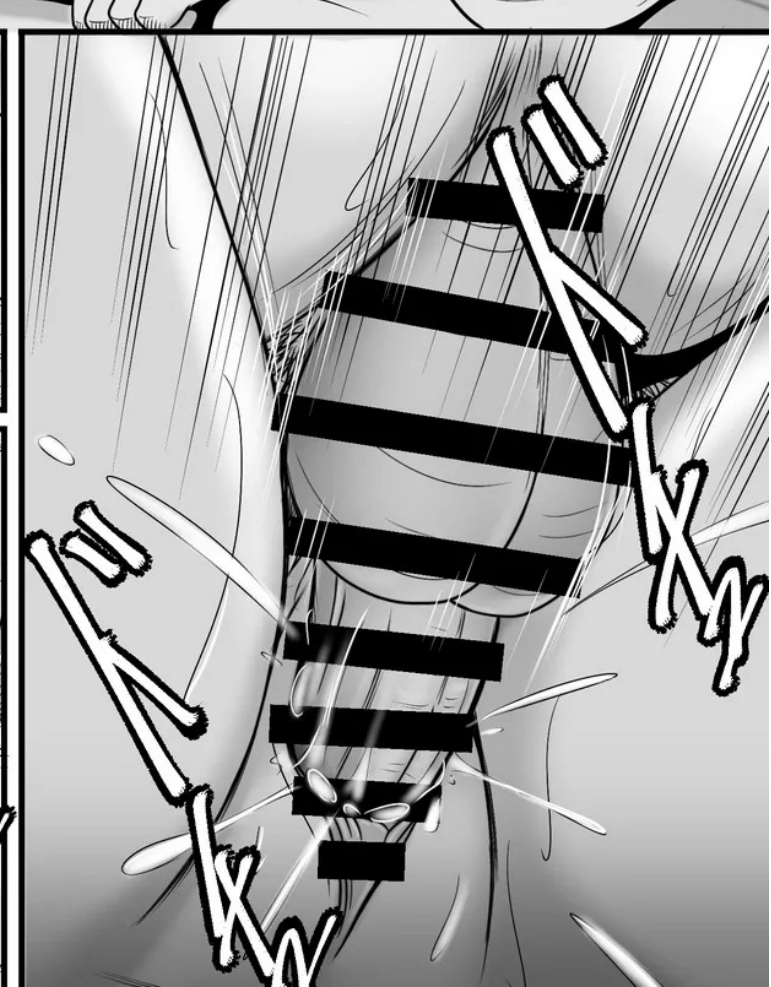
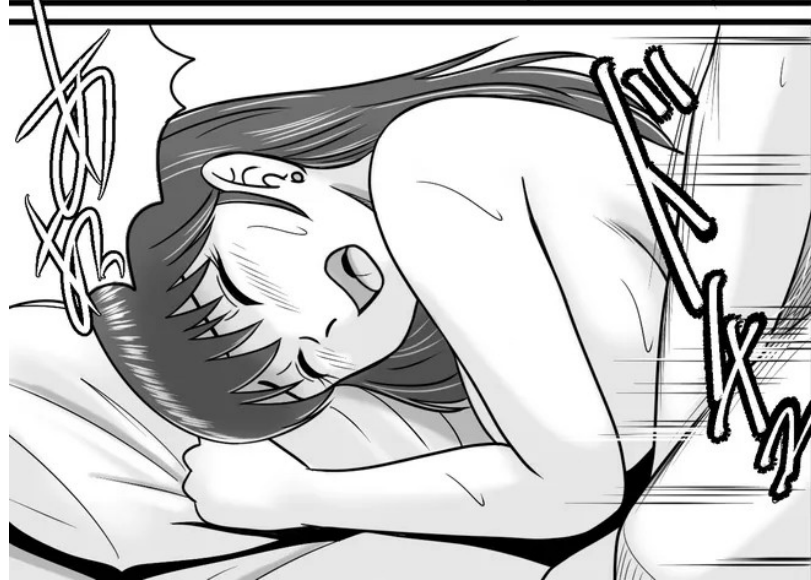
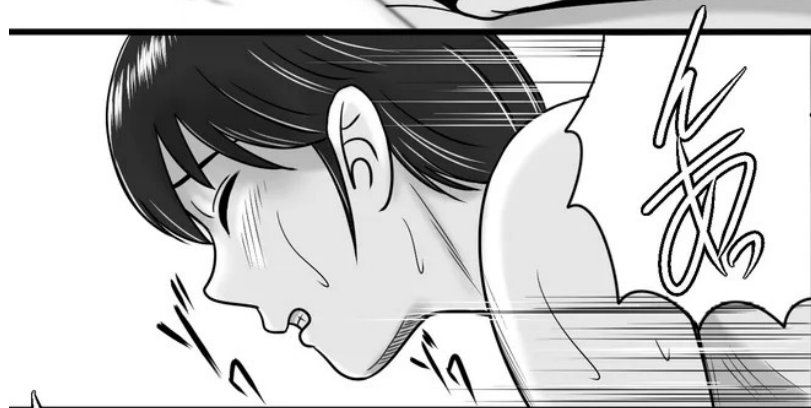
は
ん

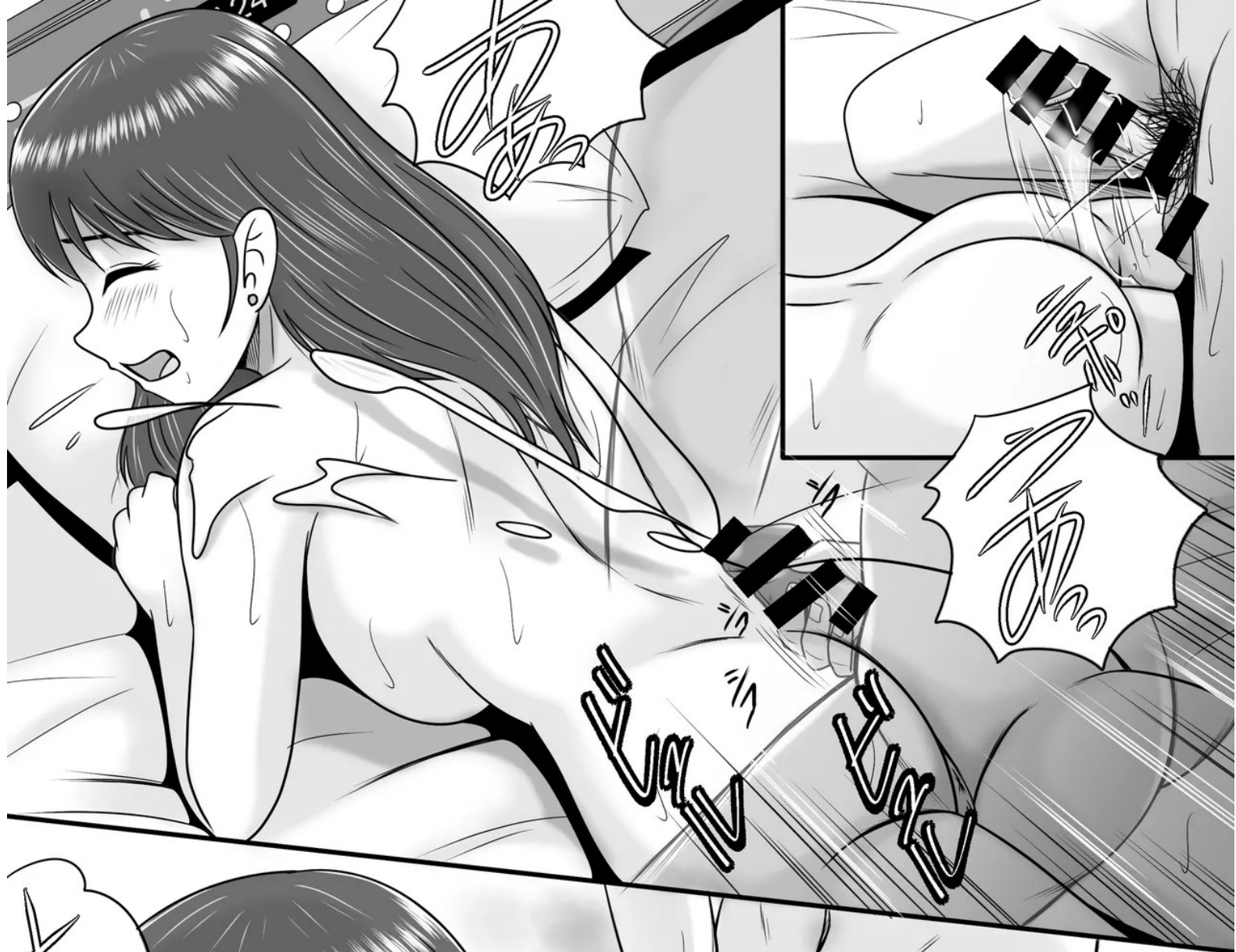
は
ん



栗ちゃん
もう
出そう！

ここですよ、
ここです。こ。

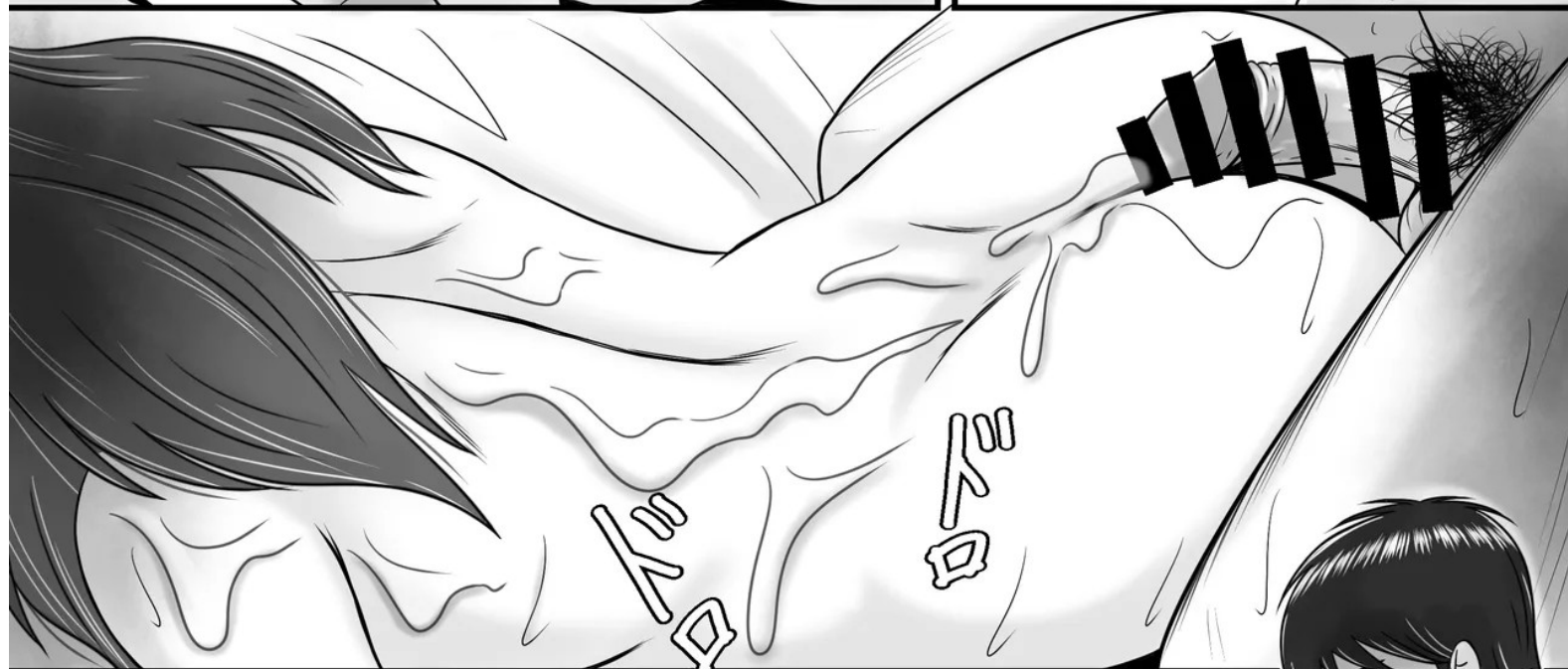




栗ちゃん
凄く良かったよ。



先輩、
いっぱい
出ましたね。



亮太のヤツ
溜まってたんじゃねえの？
お前ら
ちゃんとやってるのか？



何
言ってるの！

ちゃんと
してるわよ！

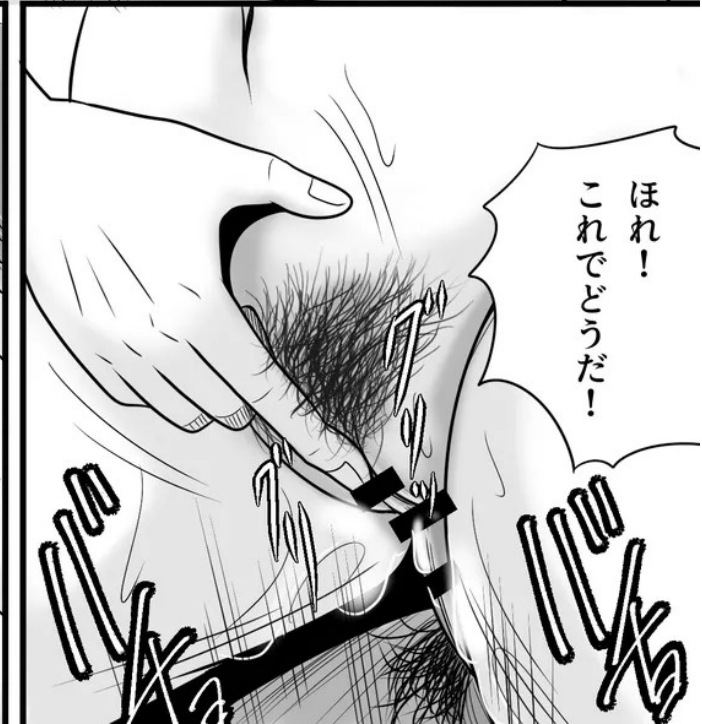
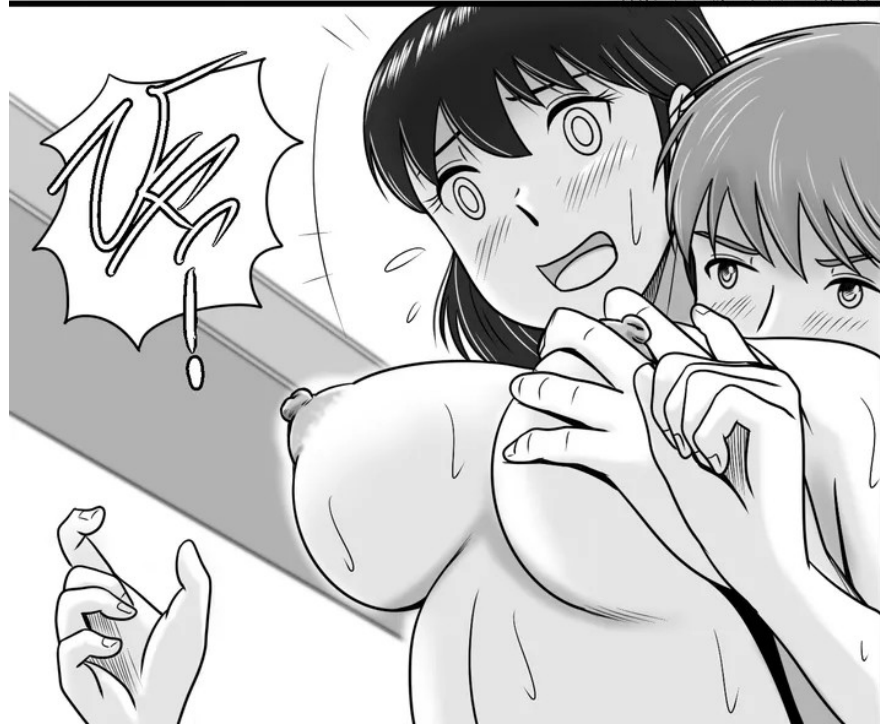
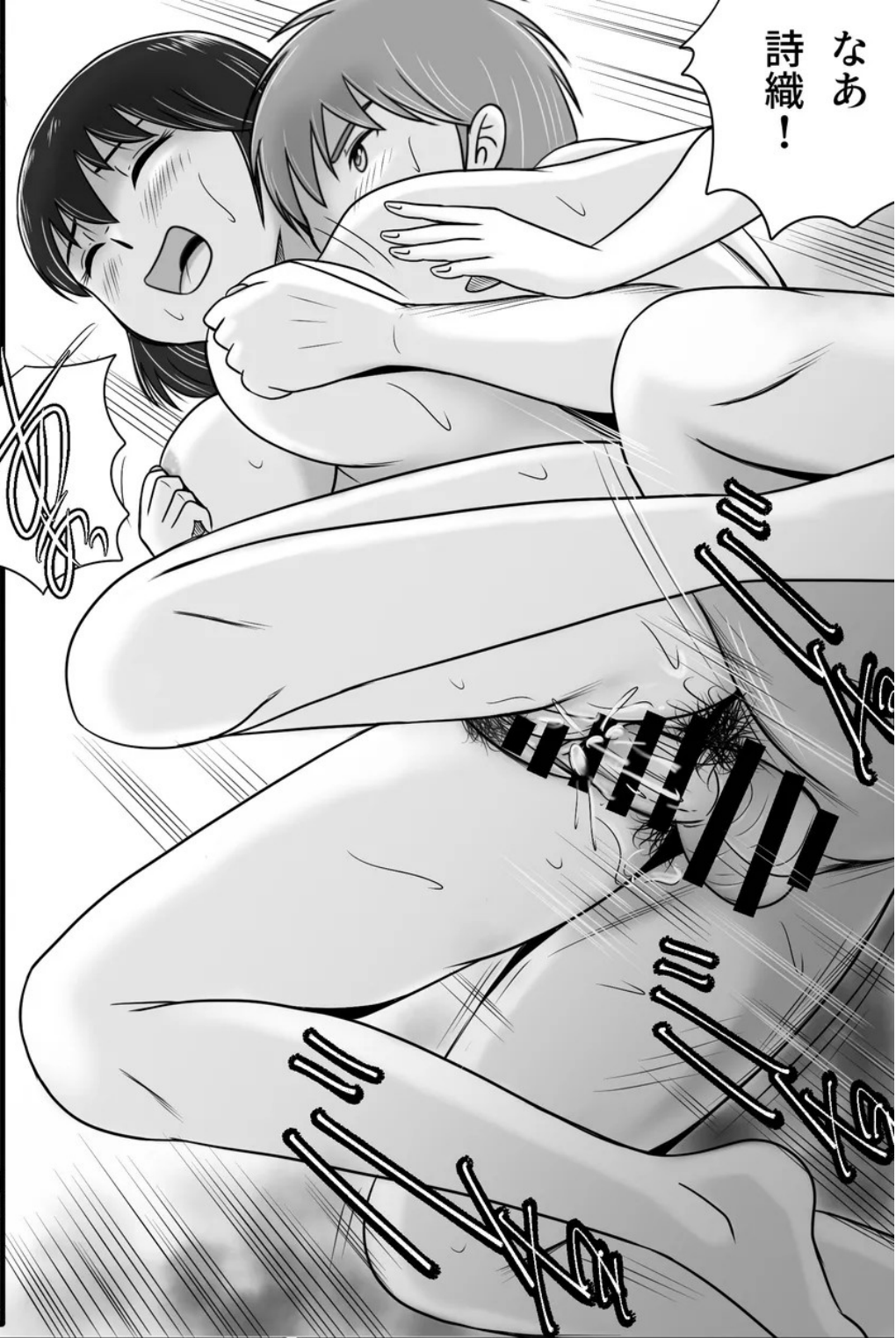


じゃあ俺も

いっぱい
出させて
もらうよ。

き
輝一君！

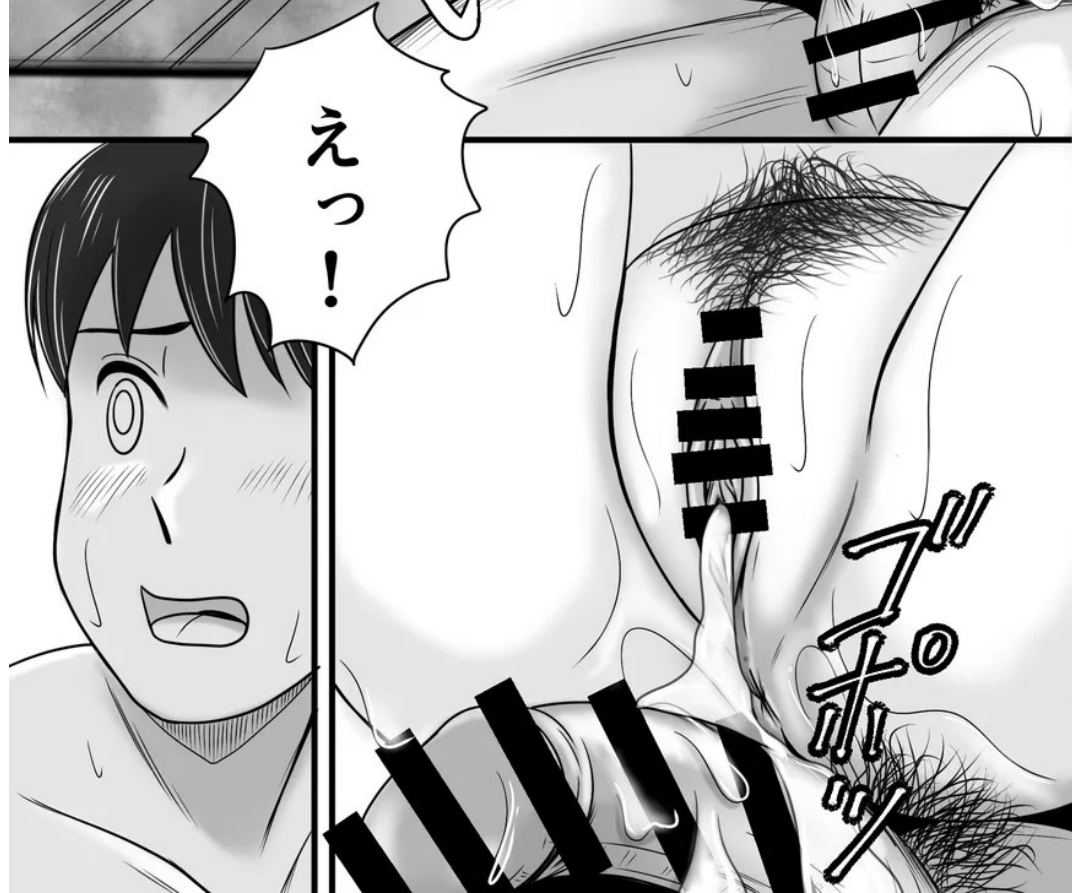
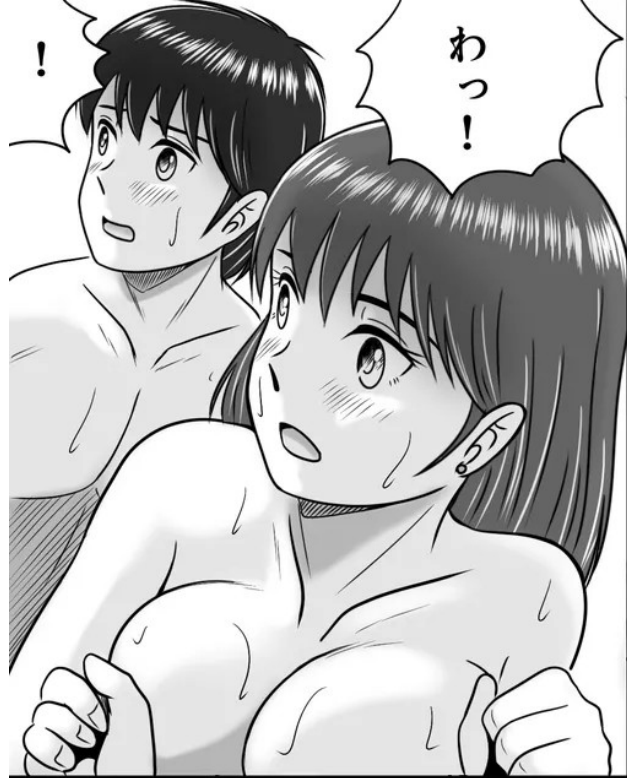












いやあ！
見ないでえ！

詩織い！

ああっ

詩織い！



じゃあ、

私達は、
先に帰るわね。

俺達は
もう少し
楽しんでくよ。

きーちゃん

早くうゝ

全部
してあげる
からね。

しゅりー

はい
はい

なあ
詩織。

今度は、
二人で会おうぜ。

!

...



お買い上げ頂きましてありがとうございます！

続編にご期待下さい！！

